

個人的リバイバルへの道

序章

なぜ、これほどまでに「聖霊と共にある人生」に魅了されてしまったのか？

2011年8月14日、スイスのベルナー・オーバーラントにあるカンダーグルトに滞在しているときに、重要な事柄が私にはっきりと示されたのです。私たちの霊的若々しさを奪っていく大きな原因となるものについてです。大きなショックを受けました。そしてまず自分の子どもや孫の顔が頭に浮かびました。この日以来、このテーマが頭から離れなくなってしまったのです。

今私たちが抱える多くの問題の背景には、霊的な原因があることは疑う余地もありません。それは個人的な問題でありながら、私たちが所属している地域教会や世界中の教会にもあてはまる問題なのです。その原因とは、私たち自身や教会に聖霊が欠乏していることです。

これが原因であるならば、この問題に対処することは急務です。原因を解消するか、迅速に対処することができたならば、多くの問題は取るに足らないものになり、完全な解決に導かれるはずだからです。

聖霊の欠乏について、著名な人々は何と言っているか？

「聖霊はいつも、多かれ少なかれ、神学の継子なのです」 —エミール・ブルナー（福音主義の改革派神学者）

「単刀直入に言うならば、聖書に基づく信仰のトピックとして、今も昔も聖霊ほど無視されてきたものはありません。…そのことが、福音主義の信仰を弱めている原因なのです」 —D・マーチン・ロイド＝ジョーンズ

「聖霊の欠如以上に、最悪の問題はないと確信しています」 —レロワ・E・フルーム

「私たちの教会は、形式や計画やプログラムにはかなり長けているかもしれませんが、しかし、霊的に破産（聖霊が欠如）していることをあくまで認めないのであれば、多くの牧師や指導者たちは、形だけのキリスト教から決して抜け出すことはできないでしょう」 —ドワイト・ネルソン

「アドベンチスト信徒の多くが、日々の生活や教会生活において、聖霊の果たす役割が非常に小さいか、全くないかのように認識しています。しかし、聖霊と共にある人生こそが魅力的で、喜びにあふれ、キリストにあって実をもたらす生き方なのです」 —ギャリー・F・ウイリアムス

「今日の教会から聖霊が取り去られても、私たちの働きの95%は継続し、聖霊がおられないことに誰も気づかないだろう。しかし初代教会から聖霊が取り去られたなら、彼らの働きの95%は停止し、聖霊がおられないことにすべての人が気づくだろう」 —A・W・トーマー

* * *

はじめに、キリストご自身が聖霊についてどのようにお語りになっているのかをいくつかのみ言葉から見ていくことにいたしましょう。

第1章

キリストの特別な贈り物「聖霊」

キリストは聖霊についてどのように語っておられるか？

二人の証し

二人の姉妹の証しからはじめましょう。

「はじめの愛」に戻る

「私と友人は『40日』と『個人的リバイバル — 本書の前段階の小冊子』を繰り返し学んで三度目になります。この本に出会うまで、私たちの信仰と祈りの生活は初めのようなではなくなっていました。ですから、もう一度「はじめの愛」に戻りたくてしかたがなかったのです。この本に出会わせてくださった神様に心から感謝いたします。神様が祈りに応えてくださり、私たち自身や、私たちが祈っている方々のために、聖霊がどのように働いてくださるかを教えてください、それは本当に素晴らしいことです。」（M・S 女性、教会員）

イエス様が私たちの人生に関わってください

もう一人も次のように証ししています。

「この本こそ、私が長い間求め続けていた祝福であり、私の人生にとって最高の贈り物となりました。他の教会の人々や、私の教会の姉妹たちが経験した様に、私も信仰生活でいつも何か欠けていました。しかし今、イエス様が私の人生にどのように関わってくださいかを体験することができ、私は少しずつ変わり始めています。現在も変わらず私に働き続けてくださり、一步一步主のみもとに近づけてくださっています。」（S・K 女性、教会員）

* * *

イエスが地上で偉大な働きをされるのを目の当たりにした弟子たちは、その秘訣がイエスの祈りの生活にあるに違いないと考えました。ですから弟子たちは次のように尋ねたのです。

「主よ、どう祈ったらよいのか教えてください。」

イエスは彼らの要求にお答えになりました。

ルカによる福音書 11:1～13 に記されている、イエスの祈りについての教えは次の3つに分かれます。

(1) 「主の祈り」、(2) 「夜中に友人が訪ねてくるとえ話」、そしてクライマックスである (3) 「聖霊を求め続けること」。

(2)のたとえ話（ルカ 11:5～8）を読むと、友人が夜遅くに到着した時、彼にはもてなすものが何もありませんでした。そこで近所にお願ひに出かけます。もてなすものが何もないからパンを与えてくれるように求めるのです。パンがもらえるまで執拗に求め続けた結果、ついに友人と自分の二人分のパン — 命のパン — をようやく手に入れることができたのでした。

このたとえ話（自分には何もないということ）を通して、イエスは聖霊を求める方法について語っておられます。「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。」（ルカ 11:9）と。

キリストの特別な願い『だから、聖霊を求めなさい』

聖霊を求めるようにとキリストが私たちに強く命じておられる聖句があります。しっかりと心に留めるように、これほど愛をもって迫っておられる箇所を他に知りません。それは同じルカによる福音書 11 章に記されています。ここでキリストは 9 回に渡って、聖霊を求めるときだとおっしゃっています。

「そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探みなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。だれでも、求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる。あなたがたの中に、魚を欲しがらる子供に、魚の代わりに蛇を与える父親がいるだろうか。また、卵を欲しがらるのに、さそりを与える父親がいるだろうか。このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子供には良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与

えてくださる。」（ルカ 11:9～13）

この短い聖句の中で、キリストは「求める／欲しがる」という動詞を 5 回用いています。そして行動を表す「探す」という動詞を 2 回、「門をたたく」という動詞を 2 回用いています。

聖霊に満たされるためには、私たちが「行動」を起こす必要があることをキリストはここにはっきりと示しておられます。また最後の「求める」はギリシャ語では進行形が使われています。つまり私たちが聖霊を求めるのは一度きりのことではなく、求め続けるように意図しておられるということです。キリストはあたたかな招きを通して、私たちの心に聖霊を求める思いを起こさせようと願っておられます。

キリストの招きの注目すべき点は、もし聖霊に満たされることを私たちが求め続けたいとするならば、それはキリストに従うための重大な何かが決定的に欠けていると確信されていることです。キリストは私たちに、聖霊が絶対に必要であることを理解させ、聖霊の豊かな祝福を経験し続けてほしいと願っておられるのです。

『キリストの実物教訓』の中にはこのように記されています。

「一度だけ求めよ、そうすれば、与えられるであろうと、神は、言っておられない。神は求めよと命じておられる。根気よく祈り続けなさい。求め続けることは、祈るその人をもっと熱心にし、求めているものに対する願いを更に増大する。」（『希望への光』 1239 ページ）

キリストは、罪深い人間の父親であっても自分の子どもには良いものを与えるのに、父なる神やキリストが、求める者に聖霊をお与えにならないわけがないと断言しておられます。正しい方法で求めさえすれば、聖霊は必ず与えられる、と約束してくださっているのです。このことから、信仰によって求めることのできるこれらの約束は、すでに与えられたものだと確信することができるのです。（ヨハネ第一 5:14、15、本文 第 5 章参照）

この特別な招きが明らかに示しているのは、私たちが聖霊を執拗に求めない姿勢には、キリストに従うための重大な何かが決定的に欠けているということです。繰り返しになりますが、キリストは私たちに、聖霊が絶対に必要であることを理解させ、聖霊の豊かな祝福を経験し続けてほしいと願っておられるのです。

キリストの祈りの教えは非常に独特です。聖霊は神様からの最も偉大な贈り物であり、他のすべてを付随させるものです。キリストが弟子たちに聖霊をお与えになったのも、明らかな愛の証拠でした。それほど価値のある贈り物ですから、人々に強制的に与えるべきでないことは私たちにも理解できます。贈り物の価値を知って真心から求める者、つまりキリストに人生を献げて生きようとする者にのみ与えられるのです（ヨハネ 15:4、5）。

神様への献身は次のような態度によって表されます。

*** 神への深い求め**（「渴いている人はだれでも」ヨハネ 7:37）

*** 神への信頼**

（「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり」ヨハネ 7:38）

*** 神を信頼し、完全に自分を明け渡す**

（「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして」ローマ 12:1）

*** すべてのことについて神に従う**

（「御自分に従う人々」使徒言行録 5:32）

*** 自分の方法ではなく神様の方法で、神様の御心のままにすべてを行う**（「悔い改め 洗礼を受け」使徒言行録 2:38）

*** 間違ったことを計画しない**

（「わたしが心に悪事を見ているなら、主は聞いてくださらないでしょう。」

詩編 66:18)

*** 自分の必要を悟り認める**（「何も出すものがないのです。」 ルカ 11:6）

*** 聖霊を求め続ける**（ルカ 11:9～13）

このような献身を神様が期待しておられることから、この贈り物には絶大な価値があることがわかります。上記のひとつひとつを自分自身の生活にあてはめてみる時に、自分はまちががなく欠陥だらけであることに気がつきます。私の場合も同じでした。

ですから、ヨハネによる福音書 7:37 の「渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい」という約束とともに、私は聖霊を求めて祈ることを日課にしたのです。

共に祈りましょう

イエス様、聖霊を受けるためのすべての条件を私は受け入れます。心からあなたに願い求めます。一日一 聖霊で私を満たしてください。素晴らしい神様は、これらの条件さえも満たして下さるお方だと信じます。 アーメン。

聖霊は充実した人生の源である

キリストがこの世においてになった目的は何だったのでしょうか？

「わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。」（ヨハネ 10:10）

キリストは、この新しい命を地上で私たちが経験し、ご再臨の後にも引き続き神の御国における永遠の命として、全く違った次元で経験するように願っておられるのです。

また、聖霊は充実した人生の源であることも教えておられます。

『渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。』イエスは“霊”について言われたのである。」（ヨハネ 7:37～39）

「その人の内から生きた水が川となって流れ出る」とは、なんと素晴らしい、充実した人生のたとえでしょうか！

地上のご生涯において、キリストはどのような模範を示されたか？

マリアは聖霊によってイエスを身ごもりました。（マタイ 1:18）バプテスマの後には「聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来」（ルカ 3:22）ました。イエスにとって、日ごとに聖霊を受けることはどれほど重要なことだったのでしょうか。

エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「朝ごとに彼は天の父と交われ、日ごとに聖霊のバプテスマを受けられた。」（『Signs of the times』 Nov.21, 1895、英文）

『患難から栄光へ』にも次のように記されています。

「キリストでさえこの地上でのご生涯に、毎日必要な恵みを神に求められたということは、献身的な働き人にとって、すばらしい慰めである。」（『希望への光』 1376 ページ）

キリストは私たちの模範です。私たちは自問しなければなりません。「もしキリストが、日ごとに聖霊による新しい力を必要としておられたならば、いったい私たちにはどれほど必要なのであろうか」と。

使徒パウロは、キリストの目的をよく理解していました。エフェソの教会への手紙 1:13 では、パウロは信者となったときに、約束された聖霊で証印を押されたと記されています。また 3:16、17 では、聖霊によって強められるようにと励まし、5:18 では承認された使徒として、エフェソの人々や私たちに「霊に満

たされるように」または「聖霊にずっと満たされ続けるように」と述べています。新しく生まれた時に聖霊を受けたとしても、日ごとに新たな聖霊を受ける必要があるということです。霊的な生活とクリスチャンの成長には、日ごとに聖霊に満たされることがとても必要なことなのです。

安息日学校聖書研究ガイドでは、エフェソ 5:18 を次のように解説しています。

「聖霊によるバプテスマとは、何を意味するのでしょうか。使徒言行録 1:8 において、キリスト御自身が並列表現でこれを説明しておられます — 「あなたがたの上に聖霊が降ると」（使徒 1:8）、「あなたがたは……聖霊によるバプテスマを受けられる」（同 1:5）と。バプテスマを受けられるというのは、何か(たいていの場合、水)の中にすっかり沈められることです。それは全身(全存在)を含みます。聖霊によるバプテスマとは、聖霊の影響下にすっかり入ること、完全に「霊に満たされ(る)」（エフェソ 5:18）ことを意味します。これは、「一生に一度きり」の体験ではなく、絶えず繰り返される必要のあるものです。」（安息日聖書研究ガイド 2014 年第 3 期『イエスの教え』 23 ページ）

キリストの別れの言葉と聖霊

キリストは別れの言葉の中で、彼の代わりに聖霊が来ることを弟子たちに教えることで、喜びと希望を伝えられました。ヨハネによる福音書 16:7 でキリストは次のように言っています。「しかし、実を言うと、わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。わたしが去って行かなければ、弁護者はあなたがたのところに来ないからである。わたしが行けば、弁護者をあなたがたのところへ送る。」

まったく新しい解決方法

ここでキリストは驚くべきことを弟子たちにお語りになりました。「わたしが去って行くのは、あなたがたのためになる。」聖霊を通して、キリストが私たちと一緒にいてくださるという新しい解決方法は、キリストが人として地上に存在することよりも、ずっと私たちのためになるというのです。なぜならこの方法によってキリストには時間や空間の制限がなくなり、たとえどこにしようとも一人ひとりと共にいることがおできになるからです。

ひとりの教師と生徒の証し

一年前に私は『個人的リバイバル』を教会で手渡され、あっという間に読んでしまいました。読み終わった後、かつてないほど神様と親しく交わる経験が多く与えられ、ますます神様に惹きつけられました。本の付録には次のような薦めの言葉が書いてありました。「教育学の研究によれば、重要なトピックについて十分に理解するためには、6 回から 10 回繰り返し読み、聴く必要があります。」そして次の言葉に目がとまりました。「一度試してみてください。結果がおのずと確信へと導いてくれるでしょう。」

私はこれを体験してみたいと思ったのです。すでに 3 回読んだ後でしたから、すでに心が捕らえられて救い主への大きな愛を感じはじめていました。2 ヶ月間で 6 回も繰り返して読みました。それだけの価値があったからです。

まるでイエス様が私のすぐ隣にお座りになり、純粹で優しい愛に満ちたまなざしを向けてくださっているように感じました。それ以来、主にある喜びなしでは生きていけなくなったのです。朝ごとにイエス様とお会いできると思うと、毎日のデボーションが楽しみになり、一日中教師として教える間も、子どもと話しているときも、聖霊の神様が私の思いや言葉を導いてくださるようにと静かに祈るようになりました。

子供がわざといたずらして私の注目を惹こうとしても、その子をうまく扱うための力を神様が与えてくださいました。

この経験の後、私は働いている間ずっと創造主の臨在に満たされています。神様はお約束どおりに日々私の生活を支えてくださっています。朝の礼拝ではもちろんのこと、一日を通して聖霊があふれ出るように祈っています。天国での生活ってこんな感じなのかしら？ と思うほど、イエス様を近くに感じるのです。

私はオーストリアのボラルベルクにあるアドベンチスト・スクール・エリアで 10 歳から 15 歳の子供たちを教えています。何度も本を読んでいくうちに、私の生徒たちにも同じ経験をさせられないだろうかと思うようになり、機会を求めて神様に祈りました。ほどなくして、幼い子どもたちの心にどのように聖霊が働かれるのかを目の当たりにする、素晴らしい経験が与えられたのです。

13 歳のラフィアンと聖霊

それはちょうど『個人的リバイバル』と出会う 1 年前のことです。一人の新しい生徒が入学してからわずか数日で、平和の園が騒がしく乱暴な教室へと一変することになったのです。ラフィアンは当時 13 歳でした。身体つきも一番大きく、力も強い生徒でした。

ラフィアン自身の言葉を引用するなら「この学校に入学した時、何が待ち受けているかなんて見当もつかなかった。2 日目にしていちゃもんをつけられ、キレて、一人のクラスメイトと殴り合いのけんかをしてしまった。弱そうだったけど、その子を殴って負かした。二度と顔を見たくないと思ったけど、あとで反省して自分が悪かったとあやまった。そのあとで校長先生と長い時間話しをして、もっと家庭でイエス様と過ごす時間を増やさないといけないと言われたんだ。ぼくのお父さんは牧師だから。」

ラフィアンには、他の子どもよりも特別に気を配ってあげなければならないと思いました。彼は自分の失敗をきちんと理解し、後悔してもう一度頑張ろうとしますが、自分ではどうすることもできません。しばらくけんかが日課のように続きましたが、その数はだんだんと減っていきました。毎朝神様に助けを求め、神様から力を頂けるように、彼自身が決心して祈るようになったのです。ラフィアンが怒りにまかせてけんかをする回数は少しずつ減っていきました。

入学して 11 ヶ月が過ぎる頃になると、状況はさらに良くなっていきました。でも怒りや罵倒や握りこぶしが完全に消え去ったわけではありません。毎朝神様に祈ってはいるものの、彼は相変わらず自分の力で怒りをなんとか克服しようとしてもがいていました。それでうまくいく時もあれば全くうまくいかない時もあったのです。祈りの習慣にはある程度の効果がありましたが、**もっとも重要なこと「聖霊の一新する力」**が欠けていたのです。

自分の失敗に気づき、自分の怒りをなんとかコントロールしようとするものの、次の瞬間にはそれがうまくいかずに再びけんかになってしまうのです。ちょうどその頃、私はこの本と出会ったのです。まさにベストタイミングでした。おかげでラフィアンには何が足りないのかをすぐに理解することができました。聖霊の力です。聖霊を求めて祈ることをしていなかったのです。

『個人的リバイバル』に感銘を受けた私は、勇気をもって彼に、聖霊を求める祈りをしたことがあるかを尋ねてみました。彼は一度もないと答えました。私はなんとかして彼にこの本を手にとってもらおうと機会をねらっていましたが、ついに彼のほうからこの本を読みたいと言ってくれたのです。

彼自身の言葉を引用します。

「2012 年 11 月に先生が『個人的リバイバル』をくれた。すぐにでも読み始めたいと思った。そのころ聖霊の働きについてはほとんどなにも知らなかったから。」

彼は初日から食い入るように 2 章分を読み終え、私にも何回読んだかと質問してきたのです。すぐに彼は繰り返して 2 章分を再び読み始め、この本が勧めているように 6 回から 10 回続けて読みたがりました。

それからは毎日が驚きの連続でした。2012 年 12 月以降、殴り合いやつかみ合いのけんかは完全に消えてしまったのです。本当に信じられないことでした。殴り合っていた「宿敵」とは大の親友になり、とて

も馬が合う仲間が変わっていったのです。ラフィアン自身が全く別人になっていました。彼は礼儀正しくなり、気性の激しい元の気質の代わりに、親切と落ち着きまで見せるようになりました。クラスメイトたちまで「神様の奇跡だ！」と叫び出すくらいです。今でも毎日その実を見ることができます。2013年6月、神様の導きによりラフィアンはバプテスマを受ける決心をしました。これが聖霊の偉大な働きでないとしたらいったい誰のおかげだというのでしょうか。

私はこれまで自分のことを、子どもの扱いはうまいし教育だってきちんとできると評価して来ました。辛抱強く、丁寧に接すればどんな子どももきっと理解してくれるはずだと。しかし今回ばかりは完全に打ちのめされていたのです。神様が私の心に介入してくださることで、私の不可能を可能にくださるのは聖霊だけなのだ、と教えてくださったのです。

ラフィアンと天国で会う時には、神様が彼を救ってくださった！ とほめ歌うことでしょう。私が知恵の限りを尽くしても、自分の力では彼を導くことができないと悟ったとき、聖霊の神様がラフィアンを根本的に変え始めたのです。神様にとっては、絶望的な状況など存在しないのだということを知り、とても励まされた経験です。（C・P 女性、教会員）

共に祈りましょう

天の愛するお父様。イエス様が聖霊を求めようように招いてくださることを感謝します。聖霊が臨在されなかったゆえの失敗を悔いています。

イエス様に私よりも大きな存在になっていただくために、私には神様の助けが必要です。生活のありとあらゆる場所で、あなたの助けが必要なのです。

聖霊が私の品性をつくりかえ、私を神の御国にふさわしい者としてくださることを感謝します。

私の持っているすべてのもの、私の存在をあなたに完全にお献げします。

私を受け入れ、祝福を与えてくださることを感謝します。

聖霊についてよく理解し、成長できるように私を助けてください。 アーメン

第2章

私たちの問題の中心はどこにあるのか？

私たちの欠乏の理由

聖書の答えがここに記されています。

「得られないのは、願い求めないからで、願い求めても、与えられないのは、自分の楽しみのために使おうと、間違った動機で（肉の思いに従って ローマ 8:5~7 を参照）願い求めるからです。」（ヤコブ 4:2、3）

キリストは愛をもって、私たちが熱心に聖霊を求めようように招いておられますし、（ルカ 11:9~13） 私たちも聖霊を求め続けるべきであることは知っています。このことについては第3章で詳しく説明することにしましょう。

「彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとしない。」（『希望への光』 1029 ページ）

私たちは長い間リバイバルを求めて祈ってきました。それはとても大切なことです。

エレン・G・ホワイトは次のように記しています。

「今日教会に必要なのは、この聖霊のバプテスマです」（『Manuscript Releases』 第7巻 267 ページ、英文）

「なぜ聖霊の賜物に飢え乾くことがないのでしょうか？ それによって力を受けることができるというのに。な

ぜそれを語り合わないのですか？ 祈らないのですか？ 説教で語ろうとしないのですか？」（『教会への証』 第 8 巻 22 ページ、英文）

リバイバルのために祈ることは良いことですが、マーク・フィンレーが言うように、「**ただ祈るだけではなく、聖書に記されているリバイバルの要素を実行する**」（『Revive us again』 25 ページ、英文）ことが重要です。さあ、あなたも個人的なリバイバルの道へと一歩を進めましょう。多くの人が聖霊により力強く、満たされた生活へと導かれているのですから。

はじめに問題の分析から始めましょう。これは徹底的に行いたいと思います。そうでないと、変化することが重要なことではなく、意味のないことだと考えてしまう危険があるからです。そのあとで、驚くべき祝福を与えられる神様の解決方法について見ていきましょう。そして最後に、どうしたらそれを実践し、経験できるのかについて説明します。

聖霊が欠乏しているからといって、過去に行われたことや今計画中のすべてが無駄だと言っているわけではありません。私たちが努力して作り上げた多くの良いプログラムや計画も、神様は豊かに祝福してくださったのです。しかし私たちがもっと聖霊に近づき、実際に聖霊の内に生きてきたならば、それをはるかに超える偉大な成果を残すことができ、またどれほどの良い解決を実現することができたでしょうか。—それは神様だけが知っておられるのです。

ヘンリー・T・ブラッカビーは次のように言っています：

「彼（神）は彼に献身した人々と共に働いて、神なしで 60 年かけて築き上げた以上の成果を、たった 6 か月で成し遂げることができるでしょう。」（『Experiencing God: Knowing and Doing the Will of God』 31 ページ、英文）

神様の導きに速やかに従うことで、より大きな成果を得ることができます。聖霊に満たされる時に、このようなことが可能になるのです。

一つの例として、牧師の説教をとりあげてみましょう。説教し終わった後で実際にどれだけの人々がメッセージを心に受け止めたかを検証したとしたら、きっと次のいずれかにあてはまるでしょう。すなわち「だれ一人として」、「わずかな人々が」、「多くの人々が」、そして「会場にいた全ての人々が」です。

説教の後で、多くの人、あるいは全ての人々がメッセージを真摯に受け止め、自分の生活で実践できたなら、メッセージはとても効果的であったこととなります。これこそが聖霊がお与えになる成果なのです。

3つのグループの人々と彼らの個人的な神との関係

神様との個人的な関係について、聖書は 3 つのグループに分別しています。もちろんこれらの種類の中でも、親のしつけや性格、訓練度、年齢、文化、受けた教育の違いなどによって千差万別の形があります。しかしどれだけ違いがあったとしても、**神様への基本的な態度はたった 3 つしか存在しません。**

* 関係がない — 聖書はこれを**生まれながらの人**と呼んでいます

* 満たされた真実の関係 — 聖書はこれを**霊的な人**と呼んでいます

* 分裂した偽りの関係 — 聖書はこれを**肉的な人**と呼んでいます

神様の言葉に出てくる「生まれながらの」、「霊的な」、「肉的な」という用語は評価とは異なります。これらは、その人と神との個人的な関係について表しているのです。

この 3 つのグループの人については、コリント第一の手紙 2:14~16 と 3:1~4 で説明されています。ほんの少しだけポイントを解説するならば、生まれながらの人は世俗的な生活をしています。また、教会

の中にある二つのグループについて見てみると、問題がどこに隠れているのかが見えてきます。重要なことは、あなたがどのグループに属しているかということです。以下に続く説明が、きっと自己分析の助けになるでしょう。これは自分を分析するのであって、決して他人の生活についてとやかく言うためのものではありません。

グループを見分ける特徴はどこにあるのでしょうか？

その特徴は、3つのグループに属する人々が聖霊とどのような個人的な関係を持っているかを見る時に明らかになります。

生まれながらの人

「生まれながらの人(自然の人)は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。(コリント第一 2:14)」
生まれながらの人というのは、聖霊とはなんの関係も持っていません。世俗に生きて、神について尋ねることはまったくあるいはほとんどありません。

霊的な人と肉적인人は教会の中にいる

この二つのグループの人々は、コリント第一 2章や3章、ローマ 8:1~17、ガラテヤ 4章や6章に出てきます。覚えておきたいことは、この二つのグループの人々の違いは、**聖霊と個人的にどのような関係を持っているかで基準が分かれることです**。なぜなら唯一、聖霊だけが私たちと天国をつなぐものと神様がはっきりと明言しておられるからです。(マタイ 12:32)

「聖霊の感化を受け入れることができるように心を開かなければ、神の祝福を受け入れることはできません。」(『キリストへの道』改定第3版文庫判 134ページ)

霊的な教会員

コリント第一 2:15~16 を読んでみましょう。

「**霊の人は一切を判断しますが、その人自身はだれからも判断されたりしません。**『だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。』しかし、**私たちはキリストの思いを抱いています。**」(イザヤ 40:13)
霊の人は真のクリスチャンです。彼が「霊の人」と呼ばれるのは、聖霊によって満たされているからです。霊的な人は、その人の個人的な聖霊との関係によって特徴づけられています。彼は聖霊によって成長する良好な関係を築いています。キリストが「生活の中心」であり、心の真ん中にキリストがおられます。

霊の人は完全にキリストのために生き、日ごとに、毎朝、すべてのことについて自分自身を献げているのです。ラオデキヤへの手紙の中では「熱い」部類に入りますし、十人のおとめのたとえ話の中では「賢い」おとめです。(ローマ 8:1~17 とガラテヤ 5章にはもう少し詳しく記されています。) 命を「豊かに受ける」(ヨハネ 10:10) 経験をする人であり、パウロによれば「神の満ちあふれる豊かさのすべてに気づき、それによって満たされる」人なのです (エペソ 3:19、コロサイ 2:9)。

肉적인教会員

教会に通いはじめて間もない人も、長年通い続けている人も、肉적인教会員でありつづけることは可能です。自分が肉적인教会員だと気づいたとしても決して心配しないでください。いやむしろ喜ぶべきです。あつという間に変えられる可能性があるのですから。聖霊と共に生きることで、あなたも大きな喜びを経験することになります。私の経験からすると、肉적인クリスチャンは往々にして自分がそうだと気づいておらず、より深い信仰経験をいつも渴望しています。そのことに気づいていないのは、必ずしもその人の責任だけとは限りません。聖霊を通してキリストと共に生きることで大きな喜びを経験することになります。(ヨハネ 15:11 ではキリストによって「あなたがたの喜びが満たされる」のです)この変化を通して一歩ずつ人生をより豊かに経験するようになり (ヨハネ 10:10) 永遠の命への希望をしっかりと見出すことができます。

共に祈りましょう

天の愛するお父様。こう自問できるようにしてください。もし私が肉の人であるならば、そのことをすぐにかかるとしてしてください。あなたの求めるものを願うことができるように。また、幸福なクリスチャン生活、永遠の命に約束されているより豊かな人生へと導いてください。私の心を新しく造り変えてください。

お祈りに応えてくださることを感謝します。 アーメン

使徒パウロが肉の教会員について何を言わんとしているかをコリント第一 3:1~4 から学んでみましょう。

「兄弟たち、私はあなたがたには、**霊の人に対するように**語る事ができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。私はあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかつたからです。いや、今でもできません。相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。ある人が『私はパウロにつく』と言い、他の人が『私はアポロに』などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。」

このグループの人の特徴が、聖霊との個人的な関係にあることがよくわかるのではないのでしょうか。この短い箇所ではパウロは 4 回も彼らが肉の人であることに言及しています。肉のとはどのような意味でしょうか？ それは、肉の力、人が生まれつき持っている力や能力によって生きる人のことを指します。さらに言えば、聖霊に満たされていないか、満たされていたとしても満たしが不十分なのです。

肉の人とは、何かとんでもない罪を犯している人のことだと思ふかもしれませんが、それはごく一部にすぎません。肉の人の中には様々な人々がいることを強調しておきたいと思ふます。パウロが肉の人に対して「兄弟たち」と話しかけているのは、**教会員**に対して話しかけているからです。パウロは彼らに「**霊の人に対するように**」語る事ができませんでした。つまり、**聖霊に満たされていないか、満たされていたとしてもその満たしが不十分なのです**。そこで乳飲み子である人々に対するように話さなければなりません。つまり、信仰において成長が十分ではないのです。聖書について多くの知識を持っていたとしても、霊的に成長していないこともあるのです。霊的な成長というのは、キリストに完全に献身し、聖霊の導きの内に自分の生活を置くことで初めて起こることなのです。

肉のクリスチャンの多くは、満足することがなく、失望することが多く、生きがいを見つけられず、霊的な生活において必死に努力しています。

残りの肉のクリスチャンはこの状態に慣れっこになってしまっているか、十分だと感じています。彼らは「私たちは罪人です！ でもどうすることもできないでしょう？」と言うのです。

ほかにも、肉のクリスチャンには熱狂的な人がいて、聖書の真理の知識を喜びと感じています。とても積極的に活動し、地方教会ではリーダーの役割を果たし、人の上に立つ立場の人もあります。神様のために忙しく奉仕をしている人もいます。

「かの日には、大勢の者が私に、『主よ、主よ、わたしたちは御名によって預言し、御名によって悪霊を追い出し、御名によって奇跡をいろいろ行ったではありませんか』と言うであろう。そのとき、わたしはきっぱりとこう言おう。『あなたたちのことは全然知らない。不法を働く者ども、わたしから離れ去れ。』」

(マタイ 7:22、23)

問題はどこにあるのでしょうか？キリストは彼らをはっきりと「知らない」と言っています。キリストとの間に真の関係がないか、その関係が偽りであるのです。真の献身ではなく、一時しのぎであるのです。聖霊を通してその人のうちにキリストが生きておられないので、キリストとの個人的な関係がないわけです。「同じように、信仰によってキリストとほんとうにつながっていないで、表面的な関係しかないかもしれない。」(『希望への光』 1032 ページ)

キリストが私たちの内におられない時とはどんな時でしょう？ そのことについて深刻な言葉を読もうと思いますが、その前に、あなたも聖霊と共に生きるならば、これらのことから解放されるということをお伝えしておこうと思います。

「告白はどうであろうと、キリストの精神に反する精神は、キリストをこぼんでいるのである。人は、悪口や愚かなおしゃべりや、不真実なことばや不親切なことばなどによって、キリストをこぼむかもしれない。人はまた生活の重荷を避けたり、罪の快楽を追い求めたりすることによって、キリストをこぼむかもしれない。彼らは世に従ったり、無作法な行為をしたり、自分自身の意見に執着したり、自分自身を義としたり、疑いをいだいたり、とり越し苦労をしたり、暗黒のうちに住んだりすることなどによって、キリストをこぼむかもしれない。すべてこうしたやり方によって、**彼らはキリストが自分のうちにおられないことを宣言するのである。**」（『希望への光』 854 ページ）

このような状態は、神様の恵みによってあっという間に変えられるのです。このことは第 3 章と第 4 章で説明したいと思います。

生命を献げ、神様に献身することが大切な理由

「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」（ローマ 12:1）

「神は私たちをいやし、解放しようと望んでおられます。（自己中心という暴虐と罪の重荷から）けれども、それには全面的な改革、つまり私たちの性質をまったく新しくする必要がありますので、私たちは自己をすべて神にささげなければなりません。」（『キリストへの道』 改訂第 3 版文庫判 60 ページ）

私たちの自己中心の代表的なものは、嫉妬、いら立ち、憤慨などです。こういった態度から私たちを解放したいと神様は願っておられます。

「神は、私たちの前に最高の祝福を置き、恵みによって私たちをそこまで導こうとなさいます。また彼のみ心を私たちのうちに行うことができるように、自己を神にささげるよう、私たちを招かれます。罪のきずなから放たれて、神の子としての栄えある自由を味わうか否かは、私たちの選択にかかっているのです。」（『キリストへの道』 改訂第 3 版文庫判 60 ページ）

神様は私たちの信仰の土台となる献身について、新生（ヨハネ 3:1~21）という形で答えてくださいます。あとは献身し続けられるかどうかです（ヨハネ 15:1~17）。このことについては、第 3 章でまた説明したいと思います。

神様に人生を献げることについて、モーリス・ベンデンは次のように言っています。

「部分的献身などというものは存在しません。少しだけ妊娠する、ということが不可能であるように、部分的に献身するのは不可能です。献身するかしないかのいずれかなのです。その中間地点は存在しないのです。」（『信仰による義における 95 カ条』 63 ページ、英文）

日ごとの献身について、エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「キリストの共労者となる者、「主よ、わたしの持っているもののすべて、わたしの全人格はあなたのものです」と言う者だけが、神の息子娘としてみとめられる。」（『希望への光』 944 ページ）

とても残念なことに、教会の中にながらにして滅びる人々があります。何と悲しいことでしょうか（このことを示しているのが十人のおとめのたとえであり、ラオデキヤの教会への手紙なのです）。

肉的なキリスト教を見分けることがとても難しい理由

肉の人の生活がたとえ「宗教的」であったとしても、肝心なもの、救いにいたる神との親密な関係を失っ

ていることに気づいていない場合があります。キリストが私たちの生活のすべてを治めていないとしたら、彼はいつまでも扉の外に立って叩いていることでしょう。(黙示録 3:20) そしてこうおっしゃるのです。「ここで変わらないのであれば、あなたを吐き出すしかない」と。

さらに厄介な問題がもう一つあります。肉的なクリスチャンも、聖書を根拠とする揺るがない教理というしっかりとした土台を持っていることです(同時にさらに洞察を深めて欲しいものですが)。真理を信じていると確信し、多くの良い知識を持ち、正しいことを口にするのです。ですから余計に肉の人の問題を見分けるのは困難なのです。

ある牧師は次のように言っています。

「『40日』に参加しているある姉妹から、電話があったところです。(『40日』については第5章でご紹介します)

『40日』のおかげで人生が変わったとおっしゃるのです。**信仰生活ですと何が足りないと思っていたし、その足りないものが聖霊だということもわかっていた**、と。彼女の証しを直接お聞かせしたかったです。今初めて神様との交わりを持っていると実感できたそうです。まわりの人々も彼女の変化に気づいているほどです。」(2012年2月15日にハウベイル牧師が受け取った電子メール)

何が足りないという自覚がありながらも、それが何であるかがわからない。多くの人々が求めつつもそれが何か、どうしたら手に入るのかが分からないのです。

コリント第一 3:1~4で、「相変わらず」という言葉が用いられていることに感謝します。「相変わらず肉の人だからです。」これは、肉の人が霊の人になることが可能だということを示しています。誰ひとり、肉の人のままで終わらないということです。教会にとどまっている限り、このことに気づき、変えられるチャンスがあるということです。どのようにして霊的に変えられていくのか、それは後ほどお話しすることにしましょう。

もう一つ注目すべき点は、妬みや争いです。「お互いの間にねたみや争いが絶えない」とある通りです。パウロによれば、この態度こそ肉的な教会員が神様の霊によらず、ほかの人々のように肉によって生きていることの決定的な証拠です。

彼らは生まれながらの人と同じでありながら、宗教的なオブラートに包まれて行動するのです。今日教会の軸にある「緊迫感」は、肉的思考の教会員から来ているということでしょうか？(ユダ 19節参照) イエスの時代にもパリサイ人とサドカイ人は互いに争っていませんでしたでしょうか？これは当時から、いわゆる保守派とリベラル推進派の間に緊張があったことを意味しています。こうでなければならぬとする人々もいれば、それにこだわらない人々もいたのです。しかし双方とも、自分たちの聖書解釈と態度こそが正しいと確信していたのです。しかしキリストは私たちに、双方とも肉的で聖霊に満たされていないことをお示しになったのです。今日も同じことが言えそうです。保守的なクリスチャンであっても、肉的なクリスチャンでありえるからです。

不幸にも、現代のクリスチャンは「保守派かりベラル推進派か」という眼鏡を通して物事を判断しがちです。しかし「肉のか霊のか」という聖書的な区別によれば、私たちはみな霊的な棚卸を迫られるのです。これはすべてのクリスチャンにあてはまることです。

ガラテヤ 6:7、8にある神様の明確な言葉に目をとめましょう。

「…人は、自分の蒔いたものを、また刈り取ることになるのです。自分の肉に蒔く者は、肉から滅びを刈り取り、霊に蒔く者は、霊から永遠の命を刈り取ります」

肉の人もキリストに従い、キリストを喜ばせたいと願いますが、自分自身を明け渡そうとしないか、明け渡そうとして墮落するかのどちらかです。(ガラテヤ 3:3、黙示録 2:4、5) 意識的ではないかもしれませんが、神様の御心に従って生きたいと願いつつ、同時に自分の思いにも従って生きようとするのです。しかしそれは無理な話です。結局、自分自身の手で命を握っているのです。言ってみれば、ひとつの身

体に二つの魂が宿るようなものです。このような状態で神は聖霊を送ってくださるでしょうか？

ヤコブ 4:3 に答えがあります。「願い求めても、与えられないのは、間違った動機で願い求めるからです」

ここにはっきりと問題は肉的な態度で求めるからだ、と書かれています。このような要求に答えることは、かえって自己中心を強めるだけではないでしょうか？結果的に、肉的な教会員は自分自身の力と能力で生きています。このような状態を黙示録 3:16 では「なまぬるい」、マタイ 25 章では「愚か」と呼んでいるのです。

キリストが肉的な教会員を「なまぬるい」とおっしゃるのはなぜか？

聖霊に満たされる経験に欠けているクリスチャンがこんなに多いのはなぜでしょうか？ この質問に答える前に、まずラオデキヤ現象について考えてみましょう。キリストはなぜ、ラオデキヤ教会の信者を「なまぬるい」と言ったのでしょうか？ キリストは明確に言及しておられます。

「見よ、私は戸口に立って、たたいている。」（黙示録 3:20）

キリストがおられたのは彼らの生活の中心ではなく、外側です。戸口の外に立っておられたのです。なぜ中にお入りにならなかったのでしょうか？それは中に招き入れられなかったからです。キリストは私たちの選択の自由を尊重されるため、無理やり入ることはなさらないのです。

ではどうして信者たちは、キリストを戸口の外に待たせるのでしょうか？この理由は様々です。ニコデモのように単に知識としての理解で十分だと考える（ヨハネ 3:1～10 参照）、あるいは「富める青年」のように「弟子」になるために払う犠牲があまりにも大きすぎると感じたのかもしれませんが。（マタイ 19:16～24 参照）キリストに従うことには、自己否定と自己改革が求められ（マタイ 16:24、25 参照）、自分自身をすべて神に献げることが要求されるのです。（ローマ 12:1）

あるいはキリストと個人的に交わる時間が不十分であるという、怠慢が原因であることもあります。

繰り返しますが、黙示録 3:20 の「なまぬるさ」の原因は「見よ、私は戸口に立って、たたいている」なのです。キリストが生活の中心ではなく外側に追いやられていることなのです。つまり「なまぬるさ」はキリストとの個人的な交わりと関係があります。ただし、他の分野においても、この人が「なまぬるい」とは限りません。

例えば、夫が仕事には多くの時間をかける反面、妻との時間をないがしろにしたとしましょう。これは、夫は仕事に献身していても、妻に関しては「なまぬるい」状態です。献身的な教会員、あるいは犠牲をいとわない教会のリーダー、牧師、総理であっても、キリストとの関係において「なまぬるい」こともありえるのです。多くの働きを成し遂げることに献身するあまり、キリストとの個人的な関係をないがしろにしているのです。これこそ、キリストが取り除きたいと願っておられる「なまぬるさ」なのです。神様の働き（教会や伝道地において）にあまりにも忙しくし過ぎて、その働きを成し遂げられる神ご自身をおろそかにするのは、なんと悲劇的なことでしょうか。

十人のおとめのたとえ

霊的な教会員、肉的な教会員について、キリストの語られた十人のおとめのたとえは何を示しているのでしょうか？

- * 十人とも、おとめであった
- * 十人とも、純粋に聖書を信じていた
- * 十人とも、ともし火を持っていた
- * 十人とも、聖書を持っていた
- * 十人とも、花婿に会いに行った
- * 十人とも、再臨を待ち望んでいた

- * 十人とも、眠ってしまった
- * 十人とも、叫ぶ声を聞き、目を覚ました
- * 十人とも、ともし火を用意した
- * すべてのともし火は燃えていた
- * 五人のおとめたちは、ともし火が消えそうなことに気づいた

十人全員がともし火を持ち、**すべてのともし火は燃えていました**。しかし、**ともし火が燃え続けるためには油が必要でした**。エネルギーが必要だったのです。しばらくすると、五人のおとめたちは自分の**ともし火が消えそうになっている**ことに気がつきました。愚かなおとめたちのともし火がしばらく燃えていたことから、彼女たちも聖霊から何かしらのもので与えられていたことが分かります。しかし十分ではありませんでした。油が少なすぎたのです。**そこが決定的な違いだったのです**。

五人のおとめたちが婚宴の中に入れてもらえるように頼んだ時、キリストは次のようにお答えになりました。「**私はお前たちを知らない**。」油、すなわち聖霊を補充するには遅すぎたのです。そして扉は二度と開くことはありませんでした。

キリストの言葉によれば、私たちとキリストの個人的な関係は、私たちと聖霊との関係によるといわれま
す。聖霊の導きに自分を委ねられない人は、キリストから「**私は知らない**」と言われてしまうのです。
ローマ 8:8、9 には次のように書かれています。

「肉の支配下にある者は、神に喜ばれるはずがありません。…キリストの霊を持たない者は、キリストに
属していません。」

実際に聖霊を通して**のみ**、キリストとの真の関係を持つことができるのです。ヨハネ第一 3:24 には、
「**神がわたしたちの内にとどまってくださることは、神が与えてくださった“霊”によって分かります**」とありま
す。自分が聖霊に満たされているという確証は、言い換えれば、私がキリストの内に生き、キリストも私
の内に生きているということなのです。

これこそ、第 1 章で紹介した『40 日』に参加していた姉妹が経験したことでした。生活の中に聖霊がお
いでになったことで、彼女と神様との関係は全く違うものに生まれ変わり、周りの人々もその変化に気づ
くほどでした。

この本を読んだ後、姉妹が南ドイツからこう書いてこられました。

「『40 日』と『個人的リバイバル』と一緒に勉強したことは、私の人生において最大の、永続的な祝福と
なりました。他の教会の人々や、私の教会の姉妹たちが経験した様に、私も信仰生活でいつも何かが
欠けていました。でも今、**イエス様が私の人生にどのように関わってくださるか**を体験することができ、私
は少しずつ変わり始めています。現在も変わらず私に働き続けてくださり、一歩一歩主のみもとに近づ
けてくださっています。」

ある兄弟は次のように書いてきました。

「『個人的リバイバル』は深く私の心の琴線に触れました。十人のおとめのたとえが書かれている章の中
でも、ローマ 8:9 の後半の言葉「**キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません**。」を聞いて大
いにショックを受けました。信仰生活の中で当然実るはずの実がなかったので、突然、自分が本当に
聖霊に満たされているのか、私の中でイエス様が働いてくださっているのか確信が持てなくなりました。
安息日の午後はこの本を読み終えた時、これまで感じたことのない大きな悲しみに包まれました。そし
て最終章にある「**祈りの見本**」について読んで、自分の心を変えてくださる聖霊が、御心に従い、私のこ
とも変えてくださるようにと心から願いました。…私の心を突き動かしたこの本に出会わせて頂いたことに
感謝しています」(A・P 男性、教会員)

肉的なクリスチャンにとっての最大の悲劇は、自分の状態が変わらない限り永遠の命を受けることがで

きないということです。「キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。」（ローマ 8:9）

ここまでを整理してみると、肉的な教会員と霊的な教会員の違いは、聖霊との関わり方の違いです。霊的なクリスチャンは聖霊に満たされています。肉的なクリスチャンは、聖霊に満たされていないか、満たされ方が不十分なのです。

自分が肉的なクリスチャンだと気づいても、怒ったり悲しんだりする必要はありません。神様はあなたを変えるために聖霊という処方箋をお持ちなのです。聖霊を強調しすぎる人々もいれば、逆に聖霊をないがしろにする人々もいます。聖書的に正しい理解の道へと神様が私たちを導いてくださいますように。

初代教会と終末の教会の比較

初代教会と現代の教会を比較してみると、初代教会はほとんどが霊的なクリスチャンで構成されていたことがわかります。このことが、教会が短期間にすみやかに発展していった理由であると使徒言行録に書かれています。助けとなるものは他になく、ただ聖霊だけが教会とともにおられました。聖霊の存在こそが私たちにとって最高の助けなのです。しかし今、私たちには聖霊が欠乏しているのです。

A・W・トーマーの言葉を覚えておきたいものです。

「今日の教会から聖霊が取り去られても、私たちの働きは95%は継続し、聖霊がおられないことに誰も気づかないだろう。しかし初代教会から聖霊が取り去られたなら、彼らの働きの95%（つまりほぼすべて）は停止し、聖霊がおられないことにすべての人が気づくだろう」（Dr・S・ジョセフ・キダー『Anteitung zum gelstichen Leben』PPP folie 2）

教会は聖霊不在の状態に慣れてしまったのか？

現代の教会のほとんどは肉的なクリスチャンで構成されているのか？

聖霊の不在によって私たちはたびたび力を失い、多くの場面で勝利を収められなかったのではないのでしょうか。私たちの肉的态度と弱々しい教会成長の現実の間には、明らかな因果関係があるのではないのでしょうか。多くの教会で起きている深刻な問題の原因は、私たちの肉的态度にあるのではないのでしょうか。

このように考えていくと、私たちの個人的あるいは共通の諸悪の問題の原因が、聖霊の欠乏にあるということがだんだんと解ってきます。

しかし私たちが個人的に神様の助けを頂く時に、これらの諸問題はあっという間に解決するのです。

牧師のために書かれた次の言葉は、すべての教会員にも当てはまるものです。

*ヨハネス・メイジャーは次のように言っています。

「パウロは、聖霊で満たされた霊的クリスチャンと、聖霊のバプテスマは受けたものの、生活の中に聖霊を招く余地を持たない肉のクリスチャンを区別しています。

牧師にたとえるならば、完璧な神学の訓練を受け、基本的な聖書の専門用語に精通し、注釈も巧みに付けることができます。聖書の真理を知的に受け止めて理解することができ、各時代の教義学に明るく、また説教に基づいた人の心を魅了する素晴らしいメッセージを語る事ができたとします。しかしこのようなすべての知識や才能をもっていても、聖霊に満たされていないのです。知識、教育、優れた技術、カリスマ性が「聖霊で満たされる人生」に取って代わってしまっているのです。説教、人前での祈り、教会の運営、伝道プログラムの準備、牧会的カウンセリングの提供、これらすべては聖霊なしでも学習さえすれば実行に移すことができるのです。（『聖霊の足跡をたどって』102～103 ページ）

エレン・G・ホワイトは、この恐ろしい可能性について次のように言っています。

「聖霊が現れることがこれほど少ないのは、牧師が聖霊なしに物事を行うことを学習しているからです。」（『教会への証』第一巻 383 ページ、英文）

*ヨハネス・メイジャー牧師は、伝道者でもあり、組織神学の教授を長年にわたり務められて来ました。スイスのベルンでは、旧ユーロ・アフリカ支部（現インター・ヨーロッパ支部）の牧師会秘書も務められました。現在は退職されてドイツのFriedensauにおられます。

まとめ

肉的存在であるということは、聖霊がおられないか、あるいは聖霊の助けが不十分なままで、人間が本来持っている力と能力に頼って生きていることです。

肉的なキリスト教の弊害

聖書の偉大な真理は次のようなものです。

— 敵を愛し、すべての点で人を赦し、罪を克服できるようになる — のは人間的な努力によってではなく、聖霊の力によってのみ実現できるのだということです。肉적인キリスト教の最大の問題は、自分の力に頼りっぱなしの人生であるということです。自分の努力で、私たちが神様の御心を実現することなど到底できるわけがありません。これについて聖書の言葉を読んでみましょう。

「私たちの正しい業もすべて汚れた着物のようになった」（イザヤ 64:5）

「クシュ人は皮膚を、豹はまだらの皮を変ええようか。それなら、悪に馴らされたお前たちも正しい者となりえよう」（エレミヤ 13:23）

「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。…また、わたしの霊をお前たちの中に置き、わたしの掟に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる」（エゼキエル 36:26、27）

「なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従えないのです。」（ローマ 8:7）

エレン・G・ホワイトは明確に次のように言っています。

「自分の努力で律法を守ることによって天に到達しようとする人は、不可能なことに挑戦しているのです。服従なしに救いを得ることはできませんが、その働きも自分の力によるものであってはなりません。キリストがその人の内に働かれ、思いを起こし、喜んで服従できるようにして下さるのです」（『Review & Herald』 July 1, 1890、英文）

聖霊なしに神様の御心を行うことが不可能であることを、これらの言葉が十分に立証しています。最も重要なことは、私たちは日ごとに神様の御心に従う選択をする必要があります、そのための力は神様が与えて下さるということです。この信仰による義の教理の理解は極めて重要で、私たちが自由にしてくれます。信仰による義の詳細については後章で説明します。

自分の力以上のことをしようとしたら何が起る？

「もう限界だ！ ああ、また失敗してしまう！」と悟った瞬間にはどんなことが起きますか？ どんな人でもある程度の落胆を経験するでしょう。特に若者は、年配の世代よりも大きなショックを受けるかも知れません。年配者は学校や家庭、そして社会規範に従う間に義務感が身についてくるので、若い人々のようには簡単に落胆したりしません。

しかし信仰の歩みにおいては、若い世代も年配者も関係なく大きな問題に直面します。若者の方がはつきり気づく場合が多いだけです。肉的なすべてのクリスチャンにとって、意識的であっても無意識でも、自分の力で信仰の道を歩もうとすることが最大の問題点なのです。

この問題をどのようにしたら解決できるのでしょうか。

神様の助けを熱心に祈り求め、一生懸命努力しようと思えますか？

それとも、自分は厳しく考え過ぎなのだと思います、もっと緩く生きようとするでしょうか。いっそのこと信仰を捨てて、自由気ままに生きることを選ぶでしょうか？ 残念ながらどの解決方法も、遅かれ早かれ誤った結果を得ることになるでしょう。

正しい解決方法はただ一つ、神様の掟と真面目に向き合うことです。神様の掟は愛のうちに、私たちに最善なものとして与えられました。しかしここで再び神様の力が必要です。この問題の解決に必要なのは、私たちが聖霊の内に生きること、より大きな喜び、動機、力、達成、そして勝利を経験することなのです。

問題の中心

問題は肉적인クリスチヤンの状態にあります。なぜキリストは「なまぬるい」教会員をお嫌いになられるのでしょうか。それは本来、神様が与えようと計画された豊かな人生を私たちが送っていないからです。本人たちは気づいていませんが、彼らはクリスチヤンの悪い生き方の模範以外の何物でもないのです。問題は想像を絶するほど深刻なものです。

「中途半端なクリスチヤンよりは未信者の方がましです。なぜならこのようなクリスチヤンが発する人を欺く言葉や献身していない態度は、多くの人々を路頭に迷わせるからです。」（『アドベンチスト聖書注解』第7巻 963 ページ、英文）

アーサー・G・ダニエルの著した『われらの義キリスト』にも次のように書かれています。

「しかし形式主義は極めて人を欺くもので、非常に有害です。それは予期しない隠れた崖であり、何世紀にも渡って教会は何度も粉碎されそうになりました。パウロは、神の力を持っていない（聖霊に満たされていない）「こうした人々」（テモテ第二 3:5）が終末時代においてもっとも危険であり、一見友好的に見えても、自分を欺いている彼らの態度に取り込まれてはならないと私たちに警告を発してきました。」（『われらの義キリスト』 20 ページ、英文）

肉적인キリスト教に導く可能性のあるもの

肉적인キリスト教に導く思いや態度は次のようなものです。

- 1 無知** — 聖霊と共に生きる人生について真剣に考えたことがありません。あるいはそれを実践するきっかけを見つけようとしません。
- 2 不信仰あるいは信仰の弱さ** — 聖霊に満たされることがキリストに献身するための前提条件です。これは無知のために、あるいは私たちが希望する道とは別の方向に神様が導くのではないかと恐れる不信が原因となります。神様の愛と全能の力に十分に信頼していない証拠です。
- 3 誤った理解** — 聖霊に満たされていると思い込んでいるだけで、実際には満たされていないか、あるいは満たされ方が不十分な状態です。これが一番多い問題です。
- 4 忙しすぎる** — あまりにも重荷を背負い込みすぎて、キリストと交わる時間を全く維持できていないか、十分に確保できていません。たとえ時間を作ったとしても、神様との関係には何の進歩もありません。
- 5 隠れた罪** たとえば償いが欠如していること — これは電線がショートしているようなもので、神様の力とつながっていない状態を表します。
- 6 自分の感情に基づく行動** — 聖書によれば「義人は信仰によって生きる」のです。あなたは神様に信頼して決断していますか？ それとも自分の感情のままに決断していますか？

ロジャー・モーヌーの次の言葉は強く心を打ちます。

「世の霊たちは、キリストや預言者たちの言葉ではなく、自分の感情に耳を澄ませるように人々を焚きつけるであろう。このようなあやふやな方法で、本人は何が起こっているのかを知らないまま、人々は世の霊たちの虜になっていくのである。」（『超自然への旅』 43 ページ、英文）

自分はずでに聖霊に満たされているのに、なぜ聖霊を求めるべきなのか？

聖霊は私たちの内にとどまるために与えられたものである一方で、神様は、信仰をもって聖霊を求め続けよと言っておられます。この一見矛盾する二つの言葉をどうとらえればよいのでしょうか。

まず、キリストはヨハネ 14:17 で「この霊（聖霊）があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。」と言われました。使徒言行録 2:38 には次のように書かれています。「悔い改めなさい。各々、イエス・キリストの名によって洗礼を受け…なさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

一方で、キリストが祈りについて教えておられた時、ルカ 11:9～13 で次のように言われました。「求め（続け）なさい。そうすれば、与えられる。…まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」エフェソ 5:18 には、「霊に満たされ（続け）」なさいと書かれています。どちらの言葉もギリシャ語では、継続を表す言葉になっています。

回答

エレン・G・ホワイトは次のように記しています。

「しかし、聖霊の働きは書かれたみことばに常に一致する。霊的世界は、自然界と同様である。肉体の生命は、一瞬一瞬神の力によって保たれている。しかもそれは、直接の奇跡によって支えられるのではなくて、われわれの手の届くところに置かれている祝福を用いることによって、支えられるのである。同様に、霊的な生命も、神のみ摂理によって備えられている方法を用いることによって支えられる。もしキリストに従う者が「全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで」（エペソ 4:13）成長しようと心から願うならば、彼らは命のパンを食べ、救いの水を飲むはずである。彼らはすべての事柄において、みことばの中に示された神の指示を心に留め、注意し、祈り、働くはずなのである。」（『希望への光』 1463 ページ、英文より再翻訳）

この世に誕生したときに私たちは命を受けました。その命は毎日の食物、飲み物、運動、睡眠などによって維持されています。

霊的な命も同じです。水によるバプテスマと霊によるバプテスマ（新生）を通して聖霊を受け続けることで、霊的な命は私たちの人生にずっと残り続けるのです。霊的な命を維持するためには、神様が計画された正しい方法、すなわち、聖霊の助け、み言葉の学び、祈り、個人の証しなどがとても大切なのです。

キリストはヨハネ 15:4 で次のように言われました。「私につながっていなさい。私もあなたがたにつながっている。」このことについて、エレン・G・ホワイトは次のように書いています。

「キリストにつながっているということは、そのみたまをたえず受けること、すなわちキリストの奉仕に無条件に服従する生活である。」（『希望への光』 1032 ページ）

ですから私たちは、信仰によって日ごとに聖霊を願い求め、自分自身と持っているすべてのものを神様にお献げする必要があるのです。

私はどちらにいますのか？

重要なことは、私はどちらのグループに属しているかということです。今私が立っている場所はどちらなのでしょう？

母は 20 歳のとき、訪ねてきたある男性の質問に、自分は信仰には興味がないと答えました。すると男性は次のように言ったのです。

「今夜、もし死ぬとしたら？」

母はこの一言に大きく動揺したのです。それは効果的な質問でした。おかげで母はキリストを受け入れ、教会に行く決心をしました。もしかしたら、この質問はあなたにとっても効果的な質問かもしれませ

ん。

「今夜、もし死ぬとしたら」（心臓発作や事故などで）

あなたはイエス・キリストと共に生きる、永遠の命を持っている確信がありますか？ 確信があるかどうか分からない、というあやふやな答えではいけません。

不安なこと

この問題の重大さを理解し始めると、不安で仕方なくなりました。この言葉を本当に書くべきかどうか熟考して祈り続けてきました。しかしこのことは地上においても、永遠の生命においても、教会や仕事はもちろん、家庭や結婚にも影響が及ぶことなので、勇気を持って書くことにしました。誰に当てはまるかはわかりませんが、少なくとも私には大きな助けとなったので、きっと誰かの助けになると信じて書くことにします。

すべての肉的人は次のことに気づくべきです。

— 神様に助けをいただかなければ、変わることは不可能です —

愛に富む神は、聖霊を通して、キリストとの親密な関係を通して、私たちに豊かに祝福したいと願っておられます。その結果、命を失うことなく計り知れない祝福を経験できるのです。素晴らしいことに、神様の助けを頂くならばあつという間にあなたの状態を正しい状態に変えていただくことができるのです。（詳細は第3章と第5章で説明します）

肉的人なキリスト教の問題について、聖書の中ではいろいろ違った表現で説明されていますが、問題の中心は同じです。いろいろな表現というのはたとえば次のようなものです。

「肉に従って あるいは 肉的人」 —ローマ 8:1~17、コリント第一 3:1~4、ガラテヤ 5:16~21 など。

「愚かな」 —マタイ 25:1~13 に書かれている「十人のおとめ」のたとえ話。

「愚かなおとめたちが表している教会の状態はラオデキヤの状態ともいえる。」（『Review & Herald』 Aug. 19, 1890、英文）

「なまぬるい」 —黙示録 3:14~21 のラオデキヤ教会への手紙。

「冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。」（黙示録 3:15）

キリストは、冷たい方がなまぬるいよりもまだとおっしゃるのです。驚くべき言葉ではないでしょうか？

「中途半端なクリスチャンよりは未信者の方がましです。なぜならこのようなクリスチャンが発する、人を欺く言葉や献身していない態度は、多くの人々を路頭に迷わせるからです。なまぬるいクリスチャンは両方の立場の人々を騙しています。彼は、かなり世俗的というわけでもなければ献身的なクリスチャンというわけでもありません。こういう人々をサタンは自分の特別な働きに用いるのです。」（『アドベンチスト聖書注解』 第7巻 963 ページ、英文）

「生まれ変わって」いない —あるいは生まれ変わった状態のままではなかった（ヨハネ 3:1~21）

「新生は、今の時代にはとても稀な経験である。それ故に、教会はたくさんの戸惑いで満ち溢れている。本当にたくさんのキリストの名を唱える者たちが満足できず、清められていない。バプテスマは受けたかもしれないが、生きたまま埋められたのだ。自我が死んでいないのだ。だから、キリストにあつて新たによみがえることがない。」（『アドベンチスト聖書注解』 第6巻 1075 ページ、英文）

信心深い装い —「信心を装いながら、その実、信心の力を否定する」（テモテ第二 3:5）

アーサー・G・ダニエルは次のように書いています。

「しかし形式主義は極めて人を欺くもので、非常に有害です。それは予期しない隠れた崖であり、何世紀にも渡って教会は何度も粉碎されそうになりました。パウロは、神の力を持っていない（聖霊に満たされていない）「こうした人々」（テモテ第二 3:5）が終末時代においてもっとも危険であり、一見友好的に見えても、自分を欺いている彼らの態度に取り込まれてはならないと私たちに警告を発してきまし

た。」(『われらの義キリスト』 20 ページ、英文)

さらにエレン・G・ホワイトは、いくつかショッキングなことを書いています。

ごくわずかの人数

「私の夢の中で、重要な建物の入口に、見張りが立っていました。そして、建物に入ろうとする人に一人ひとり、「あなたは聖霊を受けましたか」と尋ねていました。彼の手には物差しがあり、その建物に入るのを許された人は、ごくわずかでした。」(『セレクトッド・メッセージ』 第一巻 109 ページ、英文)

20 人の中の一人も備えができていない

「わたしは教会に、厳粛な訴えをしたい。それは教会名簿に名前の載っている人々の中で、地上の生涯を終わる備えができていない人は 20 人に一人もなく、その他の人々は普通の罪人と全く同じに、世にあって、神もなく望みもないということである。」(『希望への光』 クリスマス生活編』 922 ページ)

眠りをむさぼっている

「キリストの兵卒たちが、このように眠りをむさぼり、冷淡なのは、なぜであろうか。それは彼らが、キリストとの真のつながりをほとんど持っていないからである。キリストの霊に欠けているからである。」(『希望への光』 1843 ページ)

大きな危険

「ここで人生の短さや不確かさについて詳しくは書きません。でも恐ろしい危険があります。あまり理解されていない危険が。聖霊が語りかける声に耳を傾けるのを渋る危険が。罪の内に住み続ける危険が。この手遅れこそが大きな危険なのです。」(『セレクトッド・メッセージ』 第一巻 109 ページ、英文)

罪の核となっているものは何でしょう？

「彼らが私を信じないこと」です (ヨハネ 16:9)。キリストを信じ信頼しているしるしは、自分自身を完全にキリストに献げていること、完全に献身していること、すべてのことにおいてキリストに従おうとすることです。

もう一度繰り返します。このとても厳粛な段落を書き加えたかったのは、この地上においても、永遠の生命においても、教会や仕事はもちろん、家庭や結婚にも影響が及ぶことだからです。

いくつかの重要な質問

重要な質問は、あなたが聖霊に満たされているかどうかということです。しかし人はいつ聖霊に満たされるのでしょうか。そのために必要な条件とは何でしょうか。聖霊に満たされている明らかな証拠とは何でしょうか。聖霊に満たされていると思いをしていた場合には、どんなことが起こるのでしょうか。

きっかけに感謝しよう

リバイバルという課題に心が向きつつあることを神様に感謝しましょう。偉大で素晴らしい神様が、あなたに聖霊による個人的リバイバルのきっかけを与えてくださっているのには理由があるのです。その理由とは、

* 私たちの至らなさははっきりと示し、ラオデキヤの状態から神様が私たちを救い出したいと願っておられるから。

* まもなく訪れる再臨と、その直前の特別な働きのために神様が私たちを備えたいと願っておられるから。

* この世界に、世の終わりのリバイバルを (黙示録 18:1、2) 「神の掟を守り、キリストの証しを守りとおし」

(黙示録 12:17) 「キリストに対する信仰を守り続ける」 (黙示録 14:12) 者たちを通して神様が実現したいと願っておられるから。

神様が肉的なクリスチャンを霊的なクリスチャンにあつという間に変えてくださることに感謝しましょう。聖霊によって生きる人々は、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。これが私たちの次の仕事です。

この章を締めくくる前に、もうひとつの証しをご紹介します。

新しい動機と内なる喜び

「一人の姉妹が私に『個人的リバイバル』をくださり、その内容に圧倒されました。ずっと長い間このような真理を探し求めて来て、やっと巡り合えた思いです。自分の霊的生活を振り返って、何かしなければならぬと気づきました。そしてイエス様に私のすべてを明け渡したのです。

それからずっと、主は私を朝早く目覚めさせ、個人的なデボーションの時間を与えてくださいました。毎日『40日』を1章ずつ学びました。イエス様との関係がより大きなものになっていくのがわかりました。聖霊の神様が私の内に働いてくださり、関係はより深く、さらに親密になっていったのです。

『40日』を読み終えた後、『40日』の第二巻を学びました。そして、それぞれを4回ずつ繰り返し勉強しました。日ごとにイエス様と関係を結ぶことを求めることしかできませんでしたが、結果は素晴らしいものでした。新しい動機と内なる喜びが与えられるのがはっきりとわかったからです。イエス様と親しくなる多くの経験をさせていただく特権も与えられました。それからは自分の経験を分かち合うための機会を探すようになりました。

イエス様との親しい関係ができると、些細なことがあまり重要でなくなり、不要な心配事も解決していきます。私に与えられたこの素晴らしい経験を、多くの方々にも経験して頂きたいと願ひ、祈るものです。」
(H・S 女性、教会員)

第3章

私たちの抱える問題は どうすれば解決できるのか？

どうしたら幸福で強いクリスチャンになれるのか？

聖霊は私の人生に何をしてくださるのか？

キリストは言われました「わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」(ヨハネ 15:4)。

「キリストにつながっているということは、そのみたまをたえず受けること、すなわちキリストの奉仕に無条件に服従する生活である。」(『希望への光』 1032 ページ)

私たちの抱える問題を解決する二つのステップは、同時に幸福なクリスチャン人生を実現する道でもあります。それはキリストの次の言葉からも明らかです。「これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。」(ヨハネ 15:11)

この二つのステップ、

- (1) 聖霊を受け続ける
- (2) 自分を完全に明け渡す

ことによって、キリストは私たちの内にお住みになります。これこそが完璧な幸福への道です。コロサイ 1:17 は栄光の豊かさ(内住されるキリスト)について説明しています。またヨハネ 14 章には聖霊の約束である「ぶどうの木」のたとえを、ヨハネ 16 章には聖霊の働きに関するみ言葉を、キリストご自身が与えてくださったことは本当に素晴らしいことです。

重要なことは、これを毎日欠かさずに行うことです。すなわち、自分の持っているもの、あるがままの自分をすべて神に献げること、日ごとに信仰によって聖霊の注ぎを求め、聖霊を受け続けることなのです。

なぜキリストに、日ごとに自分を献げる必要があるのか？

キリストは次のように言われました。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」
(ルカ 9:23)

キリストは、「弟子になる」とは日々従うことを選びとることであり、「自分を捨てる」とは自分の生活をキリストに支配して頂くことであるとおっしゃいました。「十字架を背負う」とは常に苦しみを負い続けるという意味ではなく、パウロが自分のことを「私は日々死んでいます」と述べたように、日ごとに自我を否定して、喜んで自分自身をキリストに明け渡すことです。

キリストの時代には、死刑が確定した犯罪人が十字架を背負って処刑場に向かったことから、キリストに従おうとする時に生じる困難を受け入れることももちろん含まれます。

私たちはこの世に誕生した時に、肉的な命を受けました。その命を健康で力強く維持するためには、毎日欠かさず食事を摂ることが必要です。そして洗礼によって新たに生まれた時に、私たちは霊的な命を受けました。その霊の命を健全に力強く保っていくためには、日ごとに自分の内なる人の世話をする必要があります。

肉的な命でも霊的な命でも、世話をすることを怠れば私たちは確実に衰弱し、病気になり、ついには死んでしまいます。前もって食事を摂り貯めておくことができないように、聖霊も予め摂り貯めておくことはできないのです。

『患難から栄光へ』の中に、価値のあるアドバイスが記されています。

「霊的世界は、自然界と同様である。肉体の生命は、一瞬一瞬神の力によって保たれている。しかもそれは、直接の奇跡によって支えられるのではなく、われわれの手の届くところに置かれている祝福を用いることによって、支えられるのである。同様に、霊的な生命も、神のみ摂理によって備えられている方法を用いることによって支えられる。」(『希望への光』 1463 ページ)

私の心は『各時代の希望』の言葉に本当に魅了されました。

「われわれは、日々キリストに従うのである。神は明日のための助けをお与えにならない。」(『希望への光』 829 ページ)

エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「キリストに従うためには、まず心が完全につくり変えられること、そしてこの変化が日ごとに繰り返されるのが求められるのです。」(『アドベンチスト聖書注解』 第一巻 1113 ページ、英文)

「改心した時の献身が完全であったとしても、それが日ごとに新しくされるのでなければ、私たちに益となるものは何もありません。」(『Review & herald』 Jan. 6, 1885、英文)

「毎朝、神に自己をささげ、これを最初の務として、次のように祈りましょう。『主よ、僕を完全にあなたのものでお受け入れください。私のすべての計画をあなたのみ前におきます。どうか、僕を今日もあなたの働きのために用いてください。どうか、私とともにいて、すべてのことをあなたにあってなさしてください』と。これは毎日のことです。毎朝、その日一日神に献身して、すべての計画を彼にお任せし、摂理のままに実行するなり、中止するなりするのです。こうして、日ごとに生活を神のみ手にゆだねるとき、次第にあなたの生涯がキリストの生涯に似てくるのです。』(『キリストへの道』 改定第3版文庫判 98 ページ)

モーリス・ベンデンは次のように言っています。

「もし日ごとの献身の必要性をまだ見出していないのであれば、それは人生の重大な転換期となりえます。『祝福の山』に次のような約束が書かれています。『主を求めて日々改心するならば、すべての文句の言葉は消え、すべての困難は取り除かれ、今あなたの目の前にあるやっかいな問題はすべて解

決されるであろう。』（『信仰による義における 95 カ条』 96 ページ、英文）

日ごとに自分を献げてキリストの内にとどまることは、私たちが初めてキリストのもとに来た時と同じくらい大事なことなのです。

モーリス・ベンデンはさらにこう言っています。

「日々神と新たにつながることで、絶えず献身し、一瞬一瞬を神により頼むように導かれるのです。」
（『信仰による義における 95 カ条』 233 ページ、英文）

毎朝、意思をもって自分自身をキリストに献げる時に、神様が望んでおられることを私たちが行えるようになるのです。キリストは次のようにおっしゃいました。「わたしのもとに来なさい。」（マタイ 11:28）
「…わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。」（ヨハネ 6:37）

「主は、私たちのために偉大なことを行われる。数を通してではなく、魂のすべてを献げることを通して勝利を得るのである。イスラエルの力強い神に信頼しつつ、主の御力のうちに前進するべきなのである。」
（『神の息子と娘たち』 279 ページ、英文）

ジョン・ウェスレーは、自分自身を完全に明け渡す時に神様が与えてくださる多大な影響力について次のように述べています。「神は 99% 献身した大群衆よりも、100% 献身した一人を通してより偉大なことを達成することがおできになる。」（Dr・S・ジョセフ・キダー 『Anteitung zum gelstichen Leben』 PPP slide 14）

エレン・G・ホワイトは次のように記しています。

「キリストの共労者となる者、「主よ、わたしの持っているもののすべて、わたしの全人格はあなたのものです」と言う者だけが、神の息子娘としてみとめられる。」（『希望への光』 944 ページ）

「心と体と魂を神にささげる者は誰でも体力と知力の新しい賜物をたえず受けるであろう。…聖霊は心と思いに働くためにその最高の能力をそそがれる。神の恵みは彼らの能力を幾倍にも大きくし、神の性質のあらゆる完全さが救霊の働きにおいて彼らの助けとして与えられる。キリストとの協力によって、彼らはキリストのうちにあって完全であり、人間的な弱さのうちにあっても全能者の行為をなすことができる。」（『希望への光』 1114 ページ）

日ごとに「献身すること」「自分を献げること」「改心すること」には数えきれないほど多くのテーマが含まれているのです。

なぜ日ごとに聖霊のバプテスマを求める必要があるのか？

聖霊の満たしを求めることは、キリストにそばにいてほしいと願い求めることです。なぜなら、キリストは聖霊を通して私の内にお住みになるからです。しかしなぜ日ごとに求める必要があるのでしょうか？

エレン・G・ホワイトは『患難から栄光へ』の中にこう記しています。

「キリストでさえこの地上でのご生涯に、**毎日必要な恵みを神に求められた**ということは、献身的な働き人にとって、すばらしい慰めである。…神に頼りきって、みわざに惜しみなく献身する信仰、この信仰をもって神に熱心に、忍耐強く懇願すれば、罪との戦いにおいて聖霊の助けを必ず受けることができる。このことを主ご自身の模範は保証している。」（『希望への光』 1376 ページ）

コリント第二 4:16 にも大切な言葉が書かれています。

「わたしたちの「内なる人」は**日々新たにされていきます**。」

私たちは内なる人の世話を毎日する必要があります。では「日々新たにされる」経験はどのように与えられるのでしょうか。エフェソ 3:16~19 によると、それは聖霊を通して起こることがわかります。

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。…そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」

ここまでを整理してみると、

- * 日ごとに新たに聖霊を求めて祈る必要があります
- * その結果、キリストが私たちの内にお住みになります
- * 私たちの内なる人の豊かな栄光により、神様は驚くほどの力を与えてくださいます
- * このようにして、神様の愛が私たちの心に宿ります
- * これこそ「神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかる」命に至る道です（ヨハネ 10:10、コロサイ 2:10 参照）

もう一つ重要な聖句がエフェソ 5:18 に書かれています。「霊に満たされ…」この言葉には勧め以上の意味があることに注目してください。これは神様の命令です。神様は私たちに聖霊とともに生きるように期待しているのです。

ギリシャ語の専門家ヨハネス・メイジャーの言葉を引用するならば、この言葉は「あなた自身が聖霊によって絶えず新たにされ続けるようにしなさい」という意味になります。

安息日学校聖書研究ガイドによれば、「聖霊のバプテスマとは、聖霊の完全な感化のもとにあること、聖霊によって完全に満たされることを意味します。これは一度だけの経験ではありません。エフェソ 5:18 で使徒パウロが述べている「満たされ」という言葉の原語から判断すると、むしろ繰り返し継続して起こる経験であるのです」（聖書研究ガイド 2014 年第 3 期『イエスの教え』7 月 17 日 英文）。

エフェソ 5 章以外にも、エフェソ 1:13 でパウロは次のように言っています。

「…そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。」エフェソの人々は明らかに聖霊をすでに受けていたにもかかわらず、日ごとに「聖霊の力によって強められ」「聖霊に満たされ」「御霊により絶えず新たにされ」る必要がありました。エフェソ 4:30 には聖霊を悲しませないようにとの警告が与えられています。

エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「み霊のバプテスマを日ごとに受けるためには、働き人がめいめい神に願いをささげなければならない。」（『希望への光』 1374 ページ）

「キリストの義を得るためには、聖霊の感化によって日々つくり変えられ、神性を共にする者となる必要がある。私たちの思考を高め、心を清め、気高い人間とするのは聖霊の働きである。」（『セレクトッド・メッセージ』 第一巻 374 ページ、英文）

彼女はほかの場所にもこのように記しています。

「聖書が神の言葉であると信じた者は、その教えに従いたいと願い、日ごとに学び、真の信者に聖霊の賜物として備えられる霊的な情熱と力を日々受けるようになるのです。」（『The Sign of the Times』 Mar. 8, 1910、英文）

「われわれは、日々キリストに従うのである。神は明日のための助けをお与えにならない。」（『希望への光』 829 ページ）

「私たちが成長するためには、常に神の仲保者とつながることが不可欠です。ほんのわずかしが聖霊を求めてこなかった人も、祈りと信仰によってより多く聖霊を求め続けるべきなのです。」（『Review and Herald』 Mar. 2, 1897、英文）

ほかにも驚くような言葉があります。

「使徒の時代に、彼らを一つとした**愛のバプテスマが日々必要なのです。**」（『教会への証』 第 8 巻 191 ページ、英文）

ローマ 5:5 に、神様は聖霊によって私たちの心に愛を注ぐとあります。同じことがエフェソ 3:17 にも記されています。日ごとに聖霊のバプテスマを受けること（聖霊に満たされること）は、同時に愛のバプテスマを受けること（アガペーの愛で満たされること）であり、ガラテヤ 5:16 に記されているとおり、それは罪の力を打ち破る力となるのです。

個人礼拝の重要性

日ごとにキリストに自分を明け渡し、聖霊の満たしを求めることがこれほど重要であるならば、個人礼拝がどれだけ大切なものであるかは疑う余地がありません。

日ごとの個人礼拝と安息日を守ることは、霊的な命の基盤となるものです。

すでに聖書のみ言葉や引用文をたくさん紹介してきましたが、そのどれにも「内なる人は日ごとに新たにされるべき」と書かれていました。これこそ日ごとの個人礼拝が重要である明らかな証拠です。

神殿における礼拝の基本は、朝と夕に焼き尽くす献げ物を献げることでした。安息日にはさらに安息日のための献げ物がありました。（民数記 28:4、10）

焼き尽くす献げ物にはどのような意味があったのでしょうか。

「焼き尽くす献げ物は、罪人が神に対してすべてを献げることを表していました。自分の手には何ひとつ残さず、完全にすべてを神に献げることを。」（『Lexikon zur Bibel』 1017 ページ、英文）

「朝夕のいけにえを捧げるために定められた時間は、清い時とみなされた。やがて、ユダヤ民族全体は、その時間を所定の礼拝の時間として守るようになった。そしてのちにユダヤ人が遠国に捕われの身として散らされたときも、彼らはこのきまった時間に、エルサレムの方角を向いて、イスラエルの神に祈願を捧げた。この習慣はキリスト者にとって、朝夕の祈りの模範である。神は、礼拝の精神のない単なる儀式をきらわれる。しかし、神を愛し、朝に夕に頭をたれて犯した罪のゆるしを求め、必要な祝福を願う者たちを大きな喜びをもってごらんになる。」（『希望への光』 180 ページ）

日ごとの個人礼拝が、クリスチャン生活の土台である安息日と密接につながっていることに気づかれましたか？ 心に内住される聖霊を通して、日ごとにキリストに自分を明け渡す必要があることがおわかりいただけでしょうか。

ここで私たちは最も重要な霊的原則を理解する必要があります。それは日ごとに、すべてにおいて神様を第一にする、ということです。キリストは山上の説教で次のようにおっしゃいました。

「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。」（マタイ 6:33）

「神の国」はあなたの心の内にキリストがおられる状態を表します。ですから日ごとに自分を明け渡す必要があります、礼拝のたびごとに聖霊を求める必要があるのです。神様のみ前に立つ時には最終的な裁きを受けることとなります。キリストと個人的につながる関係を築き、キリストの内に生きてきたかどうか。（ヨハネ 15:1～17 参照）それとも、信仰を満たしていただく経験をほとんど求めてこなかったかどうかです。

キリストの義を頂くためには、日ごとに聖霊の感化によってつくり変えられる必要があります。こうして神性を分かち合う者となるのです。

神様との静かな靈的交わりの時間を全くあるいはほとんど過ごしてこなかったか、礼拝のための時間を十分に割いてこなかった人は、個人礼拝を週に一、二度行うことだけでも大いに信仰が強められるでしょう。しかしそれは週に一度だけ食事をすると同じです。想像してみてください。健全な身体をつくるのに、週に一度しか食事をしないなんて馬鹿げていると思いませんか？ これこそが、日ごとに個人礼拝を行わないクリスチャンが肉的存在である理由です。

このような状況にとどまり続けるクリスチャンは残念ながら救われていません。肉的存在なクリスチャンにとって礼拝は単なる義務ですが、靈的存在なクリスチャンにとっての礼拝は欠かすことのできない重要なものだからです。

数年前にジム・パウスが著した「I was a Gangster」という小冊子を読みました。彼は罪人でしたが、心から悔い改めて改心し、自分が犯した偽証や窃盗などの罪を告白しました。すると彼の人生に頻繁に神様が介入されるようになったのです。これには私も感動しました。「自分はまだこんな経験をしたことがないな」と思いました。そしてこう祈ったのです。「天の父なる神様、私の記憶にある罪も自覚のない罪もすべて告白したいと願います。毎朝一時間早く起きて祈り、聖書を読みます。あなたが私の人生にも介入してくださるかどうかを見たいのです」

神様に感謝します！ 神は確かに私の人生にも介入してくださいました。その時以来、特に朝の個人礼拝と安息日が、神様と共に生きる私の人生の土台となったのです。

日々キリストに自分を明け渡し、聖霊に満たされることを通して、私たちの生活は有益なものに変わっていきます。これは日ごとの個人礼拝によって起こるのです。

靈と真理による礼拝

礼拝の目的について考えてみましょう。神様が人間にこれまでずっと語り続けておられるメッセージは、獣を礼拝するのではなく、創造主を礼拝しなさいということです。（黙示録 14:6～12）神様への礼拝を公に表すしるしは安息日（創造主を礼拝すること）ですが、心に秘められた礼拝の心構えについてはヨハネ 4:23、24 に書かれています。

「しかし、まことの礼拝をする者たちが、靈と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。神は靈である。だから、神を礼拝する者は、靈と真理をもって礼拝しなければならない。」

靈をもって礼拝するというのは、意識的に礼拝するだけでなく、聖霊に満たされることを意味しています。真理をもって礼拝するとは、私の内で真理となってくださいるキリストにすべてを明け渡して生きることです。キリストは「わたしは真理である。」とおっしゃいました（ヨハネ 14:6）。それはキリストに内住していただくことを通して、神様のみ言葉と導きに従って生きることを意味します。「あなたの御言葉は真理です。」（ヨハネ 17:17）

詩編にも次のように書かれています。「あなたの律法はまことです。」（詩編 119:142）

もし、まことの礼拝をいま献げていないのならば、最も厳しい時に墮落してしまう可能性があるとは思いませんか？ これがすべての肉的存在なクリスチャンにとっての最大の問題なのです。

すべてのクリスチャンは神様の助けによって前進し、知識の上でも成長することを願っている、と私は信じています。誤った信心に従うことは、私たちの前進を大きく妨げてしまうのです。

バプテスマと聖霊

自分はバプテスマを受けたのだからすでに聖霊に満たされており、ほかにしなければならないことは何もない、と思い込んでいる人たちがいます。

この点についてD・L・ムーディは次のように言っています。

「一度満たされたのだから、ずっと満たされていると考える人たちがいます。友よ、私たちは小さな穴の

開いた器なのです。満たされるためには常に泉のもとにとどまっている必要があります。」（『They Found the Secret』 85～86 ページ、英文）

ジョセフ・H・ワゴナーは次のように言っています。

「バプテスマが聖霊の賜物の証拠であると考えられるところでは例外なく、悔い改めた罪びとたちが思い違いをして肉的な安穩に誘（いざな）われます。彼らにとってはバプテスマそのものが神の賜物であつて、バプテスマ後に聖霊が心に住んでおられないことが彼らのしるしとなり「証」となるのです。」（『The Spirit of God』 35 ページ、英文）

バプテスマは間違いなく重大な決心であり、神様のみ旨に応答することです。その重要性はいつまでも消えることはありません。しかし聖霊に満たされている証拠を過去のイベントに求めるべきではありません。そうではなく、**今**聖霊に満たされているかどうかを知り、**今**聖霊の満たしを経験すべきなのです。

バプテスマを受ける前に聖霊に満たされた人々がいます。たとえばコルネリウスとその家族やサウルなどがそうです。一方でバプテスマを受けた後で聖霊を受けた人々もいます。サマリヤ人やエフェソの 12 人がそうです。バプテスマの前であろうと、その時であろうと、後であろうと、聖霊を受けることに変わりはありません。大切なのは、確かにある時点で聖霊を受け、**今**も私たちの心の内に聖霊がおられるということなのです。過去にどうであったかは問題ではなく、「今」どうであるかが大切なのです。

重要な言葉をもう一度繰り返します。私たちはこの世に誕生して命を受けました。その命は毎日の食物、飲み物、運動、睡眠などによって維持されています。そうでなければ長く生き続けることはできないでしょう。肉体の命と同じ法則が霊的な命にもあてはまります。

キリストに完全にすべてを明け渡した時に、聖霊を通して新しい命を受けました。その霊的な命は、聖霊との交わりや祈りやみ言葉などを通して保たれるのです。エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「霊的世界は、自然界と同様である。肉体の生命は、一瞬一瞬神の力によって保たれている。しかもそれは、直接の奇跡によって支えられるのではなくて、われわれの手の届くところに置かれている祝福を用いることによって、支えられるのである。同様に、霊的な生命も、神のみ摂理によって備えられている方法を用いることによって支えられる。」（『希望への光』 1463 ページ）

肉体の命も、霊的な命も、何もせずに自動的に私たちの内に保たれるわけではありません。神様が私たちに備えてくださった方法を用いる必要があるのです。

新しい命に生まれ変わった時に、私たちのうちにとどまるために聖霊が与えられます。しかし聖霊がとどまるかどうかは、神様が私たちに備えになった方法を日ごとに行うかどうかにかかっているのです。その「方法」に頼らずにいったいどんな良い結果を期待できるのでしょうか。

これらの「方法」の中でも聖霊を求めることが最も大切です。それに加えて、祈りやみ言葉を通して神につながる事、また礼拝に参加することも大切なことなのです。

日ごとに内なる人の世話をすることが重要なルールであることがおわかりいただけたと思います。そうでなければ、私たちは聖霊を悲しませることとなります。聖霊は前もって摂り貯めることはできないのです。「神は明日のための助けをお与えにならない。」（『希望への光』 829 ページ）ですから日ごとにキリストに自分を明け渡し、日ごとに聖霊に心に住んでいただくことが重要なのです。

聖霊を求めることとキリストとの親密な関係を築くということは、**コインの表と裏のように、同じ目的を果たすものです**。聖霊をお招きして心の内に住んでいただき、自分を明け渡すことを通してキリストに献身す

るのです。

ヨハネ第一 3:24 の言葉（ヨハネ 14:17、23 も参照）は、聖霊を通してキリストが私たちの内に住まわれることを明らかにしています。

「神がわたしたちの内にとどまってくださることは、神が与えてくださった“霊”によって分かります。」

聖霊の効果

聖霊が私の内におられるなら、キリストがしてくださることを聖霊が私の内で行ってくださるのです。

ローマ 8:2 には「キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。」と書かれています。「霊の法則」とは、神に完全に献げられた心の中で聖霊が働かれることを表します。キリストのわざを私の内で実現できるのは聖霊だけです。

エレン・G・ホワイトは次のように表現しています。

「みたまは人を生れかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたたなかったであろう。…世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。みたまによって、信者は神の性質にあずかる者となる。…神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。」（『希望への光』 1029 ページ）

トーマス・A・デイビスはこの過程について次のように説明しています。

「キリストの働きが人々にどれだけ効果を与えたかについても聖霊次第なのです。聖霊なしには、キリストがこの世でなされたすべてのこと、ゲッセマネでのこと、十字架の上でのこと、復活や天における祭司としての働きも、すべて失敗に終わったことでしょう。キリストの働きは、偉大な世界宗教や倫理的指導者と比較してもそう変わらないものであったでしょう。キリストが彼らよりもはるかに偉大だったとしても、その教えと模範を通してだけでは、人類全体を救うことはできなかったでしょう。

人々をつくり変えるためには、人々の心の中に入って働く必要がありました。この働きは、人々の心に送られた聖霊によって初めてキリストがおできになったことでした。」（『Als Christ siegreich leben』 Seite 43）

このことだけでも、聖霊に満たされる必要がある理由が明らかではないでしょうか。

「神のみたまが心を占領される時、それは生活を生れ変らせる。罪の思いはしりぞけられ、悪い行為は放棄され、愛と謙遜と平安が怒りとねたみと争いに入れ代る。よろこびが悲しみに入れ代り、顔には天の光が反映する。」（『希望への光』 750 ページ）

聖霊と共にある人生にはほかにたくさんの素晴らしい結果がともないますが、聖霊なしでは大きな損失や欠乏を経験することになります。聖霊と共にある人生と、聖霊のいない人生の違いについては第 4 章で説明します。

私は聖霊に満たされているか？

キャサリン・マーシャルは聖霊の満たしについて、次の質問に答えるように薦めています。

* 私の生活の中に明らかな聖霊の影響は見られるか？ 例えば、キリストが真実で偉大な存在であることを聖霊によって確信しているか？（ヨハネ 15:16）

* 聖霊の内なる声を感じ理解し始めているか？ 人生の大小の選択において、聖霊が私を導いているか？（ローマ 8:14）

* 聖霊によって私の心に周りの人々に対する新しい愛が芽生えているか？ 普通なら友達にならないような人に対しても、優しい思いやりの気持ちや真剣に心配する気持ちを聖霊が与えてくれているか？（ガラテヤ 5:22、ヤコブ 2:8~9）

* 未信者のために働くときに聖霊の助けを何度も経験しているか？ 不安を抱える人々の心に届く優

しい言葉を聖霊が与えてくれているか？

*キリストについて証したり、未信者をキリストに導く力を聖霊が与えてくれているか？

*祈りの生活を通して聖霊が助けを与え、聖霊を通して日ごとに神に従う献身へと導かれているか？

これらの質問に答える時、聖霊によって私たちが成長するためにはもっとよく聖霊を理解し、聖霊を愛する必要があることが良くわかります。

ある兄弟は次のように証しています。

父と私は仲直りをしました。『個人的リバイバル』と『40日』の第一巻と第二巻を勉強したあとで、聖霊に満たされる素晴らしい経験をしました。とくに心が躍ったのは、私の人生のどの分野においても聖霊が働かれようとしておられることを経験したことです。

父と子の仲直り

私と父との関係はいつもどこか複雑なものでした。父と良い関係を取り戻せるように。これが幼い時からの私の願いでした。でも状況はどんどん悪化していきました。

6、7年たった時のことです。神様が私の空っぽの心を満たしてくださったのです。聖霊について学び、祈っていた時に、妻と私は偉大な神様と交わる多くの体験をしました。家族のこと、特別に父のことを継続して祈るようになりました。すると父を愛するための新しい力が与えられたのです。幼い時から父との間でうまくいかなかったすべてのことを許すことができました。

私と父は今では大親友です。父もより霊的になって他の人々にも神様のことを伝え始めました。2年たった今も父との関係は良好です。この経験を与えてくださった神様に感謝します。

自分には力が足りないいつも思っていましたし、孤独も感じていました。しかし日ごとに聖霊を求める祈りを始めてからは、これまでにない素晴らしい人生と神様との親しい交わりを経験させていただいています。

共に祈りましょう

イエス様、聖霊を通して私の内にとどまってくださいることを感謝いたします。

日ごとにあなたにより頼むことで、信頼と愛の関係が成長していることを感謝します。主よ、聖霊とその働きについてもっと理解できるように助けてください。

私のために、私の家族のために、私の教会のために何をなさうと望んでおられるのか、またどうしたら私たちが聖霊を受けている確信を日ごとに持つことができるのか知りたくてたまりません。このことを示してくださいる神様に感謝します。アーメン。

エフェソ 5:18 の補足 — 「聖霊に満たされる」

エフェソ 5:18 に書かれた要求は緊急を要するもので、すべての人を対象とした神様の命令です。聖霊の満たしを求めることは私たちの務めなのです。このことは、言語であるギリシャ語を学ぶ時にさらに明らかになります。

ヨハネス・メイジャーは次のように解説しています。

「新約聖書の手紙の中で、聖霊に満たされることについて直接言及しているのは 1 か所である。『霊に満たされなさい』（エフェソ 5:18）。

使徒言行録では、特別の状況下で賜物としての聖霊が力強い方法で吹き込まれているのを発見する。しかしパウロは、人生の状況に関わりなくキリストを信じるすべての者が聖霊に満たされるように命令している。この短くも重要な命令は 4 つの大切な要素を含んでいる。

1 『満たす(plerein)』という動詞は命令形として使われている。ここでパウロは奨励や親切なアドバ

イスをしているのではない。受け入れるも拒むもその人次第といった提案ではない。神から力を受けた使徒として命令している。命令は常にその人の意志に訴える。もし一人のクリスチャンが聖霊に満たされるのであれば、それはおおむねその人自身によるのである。クリスチャンであることは、常に聖霊に満たされる努力をすることが条件なのである。聖霊に満たされることは私たちの責任なのだ。

2 この動詞は複数形である。つまりこの命令は教会の特別な働き人一人に対するものではない。聖霊に満たされることは、特定の選ばれた幾人かに与えられる特権ではないのだ。この命令は教会に属するすべての人を対象としており、いつでも、どこでも例外はないのである。パウロにとっては、すべてのクリスチャンが聖霊に満たされることは当たり前のことであつたのだ。

3 この動詞は受動態であり『自分を聖霊で満たしなさい』とは書かれていない。そうではなく『聖霊によって満たされなさい』なのである。誰も自分の力で聖霊を満たすことはできず、それを行ってくださるのは完全に聖霊の働きなのである。しかし、個人個人は聖霊に満たして頂くための状況をつくるべきである。積極的な意志をもって求めなければ、聖霊がその人の内にあつて働くことはない。

4 ギリシャ語の命令形は現在命令形である。これは一度だけの行為を表す非限定過去命令形とは異なり、常に繰り返されることを表す。つまり聖霊に満たされることは、一度きりの経験ではなく、繰り返し発展していく過程を表している。クリスチャンはただ一度満たされれば済むような器ではなく、常に満たされなければならない器である。

この文は次のようにも言い換えられる。

『自分自身を常に、繰り返し、新しく霊に満たされるようにしなさい。』

聖霊の満たしはバプテスマ(神への完全な明け渡しをともなう水と霊によるバプテスマ)で与えられるが、与えられた満たしを維持しなければ簡単に失われてしまう。しかし、失われてもまた与えられるのだ。聖霊による満たしは繰り返しなされるべきで、そうすることで聖霊は私たちの人生のあらゆる分野を支配し、霊的な命が萎えて小さくなることはない。

聖霊に満たされるとは私たちの中で聖霊が量的に増えるのではなく、私たちのより多くの部分を聖霊に支配して頂くことなのである。だからパウロは、すべての信者に対して常に聖霊に満たされるようにと命令したのだ。クリスチャンにとって聖霊に満たされることは当然の状態なのだから。聖霊は一つであっても多くの者がそれによって『満たされる』のだ。」(『Auf den Spuren des Geistes』 100～101 ページ、独文)

「わたしたちの主ご自身が、『御霊に満たされ』なさいと命令された」(『希望への光』 1132 ページ)

「自分自身を常に、繰り返し、新しく霊に満たされるようにしなさい。」(『Auf den Spuren des Geistes』 Seite 101、独文)

第4章

どのような違いが期待できるのか？

聖霊に満たされた人生にはどのような利点があるのでしょうか？

聖霊を求める祈りを怠ると何を失うのでしょうか？

肉的クリスチャンと霊的クリスチャンの比較

肉的クリスチャンが行きつくところについてはすでに部分的に挙げましたが、以下のようにまとめることができます。

- *この状態では、人は救われません（ローマ 8:6～8、黙示録 3:16）
- *神様の愛（アガペーの愛）は彼らの内にはありません
（ローマ 5:5、ガラテヤ 5:22） 彼らは人間的な愛に完全に頼っているため、肉の心がまだ砕かれていません（ガラテヤ 5:16）
- *聖霊を通して与えられる力によって強められていません（エペソ 3:16～17）
- *彼らの内にキリストが生きておられません（ヨハネ第一 3:24）
- *キリストを証しする力を受けていません（使徒言行録 1:8）
- *彼らは人間的な方法で行動するため、(コリント第一 3:3) 他人を容易に敵視し、緊張関係をつくり出します
- *概して、彼らが他者の勧告を受け入れるのは非常に困難です
- *彼らの祈りの生活は十分ではありません
- *彼らは人間的な力によってしか人々を赦すことができないので、恨み、悪意に耐えることができません

肉的クリスチャンの多くは、生まれながらの人間のようにふるまいます。パウロが言うように「あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる」（コリント第一 3:3）のです。あるいは、霊的な人のように行動しているように見えても、実際には彼らは自分自身の力と能力に頼って生きています。

霊的クリスチャンは、神様の満ちあふれる豊かさを経験しています。

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、**力をもってあなたがたの内なる人を強めて、**信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住ませ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるよう。また、あなたがたがすべての聖なる者たちと共に、キリストの愛の広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解し、人の知識をはるかに超えるこの愛を知るようになり、そしてついには、**神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、**それによって満たされるように。わたしたちの内に働く御力によって、わたしたちが求めたり、思ったりすることすべてを、はるかに超えてかなえることのおできになる方に、教会により、また、キリスト・イエスによって、栄光が世々限りなくありますように、アーメン。」（エフェソ 3:16～21）

肉的キリスト教の影響

私が聖霊を十分に受けていなかったために、家族に対して、あるいは私が牧会を行った教会で犠牲となった人々に対して後悔するばかりです。自分自身が持っている以上に人々を導くことはできないという事実は、牧者の働きにおいては真理です。家庭においても、教会においても、各々の聖霊が欠乏しているということは、負の影響が積み重なって何倍もの悪影響を及ぼす可能性があるということを認識する必要があります。

子どもと青年

リベラルなクリスチャンにとっては、肉적인キリスト教が生き方の温床となります。気づかない間に、良い動機から無理なことをしようと努力しはじめ、なんとか現実から抜け出そうとものがくのです。しかし多くの青年たちが失われた原因はここにあるのではないですか？

無意識に、あるいは意図的に、私たちは子どもたちや青年たちに、肉的クリスチャンになる模範を示してきたではありませんか？ その結果、彼らも同じ肉的クリスチャンとなって落胆に苦しむことになったのです。

彼らが教会に対する真剣さを失い、礼拝出席も疎かになり、やがて教会を離れていく原因もここにあるのではないのでしょうか。

先日、私の兄は聖霊に促されて次のように教会に訴えました。

「私たち自身、そして青年たちが抱えている多くの問題の原因がここに 있습니다。それは多くの教会員が、聖霊の働きを十分に理解せず、これまで聖霊に満たされてこなかったことです。」
キリストにすべてを明け渡そうとしない、なまぬるい信仰の結果についてもう一度思い起こしてください。「中途半端なクリスチャンは、信じない者よりもたちが悪いのです。というのは、彼らの惑わしの言葉や献身していない生活態度が、多くの人々を迷わすからです。信じない人々の態度のほうがはっきりしているのです。しかし熱くも冷たくもないクリスチャンは、信者だけでなく未信者をも惑わします。彼らは善良な一般人でも、良いクリスチャンでもありません。サタンは悪の働きを推進するために、彼らのような人々を用いるのです。」（アドベンチスト聖書注解 第7巻 963 ページ 黙示録 3:15～16 に関するコメントからの引用）

しかし霊的に生きるのであれば、神様の援助を受ける道を子どもたちに示すことができます。エレン・G・ホワイトは驚くべきことを書いています。

「聖霊のバプテスマを毎日受けることは**特権**である、ということ子どもたちに教えなさい。彼らの目的を達成するための助け手をキリストの内に見いだしなさい。祈りを通してのみ、子どもたちへの信仰継承が完全な成功へと導かれる経験を得ることができるのです。」（心を育てる家庭教育 69 ページ、英文）

私たちは子どもたちに祈るように教えますが、毎日聖霊を求めて祈らなければならないことをきちんと伝えているでしょうか？あるいは私たち自身がそれをしていないことはないでしょうか？少なくとも当時、私と家内はそのことを認識していませんでした。神様が、理解のないままの私たちをほっておかれなかったことに心から感謝いたします。さもなければ、どれほどの損失を被っていたかわからないからです。子どもたちが自らをキリストにゆだね、日々聖霊を求めて祈る姿を見ることは、両親にとってどれほど大きな喜びでしょうか！

雰囲気— 神様の愛の関係か、それとも互いに仲良さそうにしているだけか？

キリストの弟子でありながら生活において神様の力が欠乏し、神様の愛を見失い、罪が砕かれていない肉的クリスチャンと、神様の恵みによってこれらすべてが顕著に高められた霊的クリスチャンを比較するならば、結婚生活や家庭、教会における雰囲気、クリスチャン同士の人間関係にはどのような違いが生まれるでしょうか。

肉的クリスチャンは保守的で、人々を批判する傾向があります。これは正しい方法ではありません。神様の正義について語ることは必要なことですが、同時に内側から変化がおこるのでなければ、人の心を変えることは出来ないということを理解しなければなりません。

リベラルな肉的クリスチャンは、ものごとを真剣に捉えず、この世の習わしと足並みを揃えます。このような状態では、神様は彼らに祝福を与えることができません。

ジョセフ・キダーは、教会の状態を次のように描写しています。

「無気力さ、浅薄さ、世俗にまみれ、寛大さが欠如し、牧師は燃え尽き、若者は教会を離れ、彼らの自己訓練は軟弱である。その計画には現実的基盤がないために結果が伴わず、献身的で強力な人々が慢性的に不足した状態」であると。

私たちが抱える問題の主な原因は、キリストとつながろうとせず、（ヨハネ 15:1～5）、人間の努力に頼りすぎている（ゼカリヤ 4:6）状態にあるのではないのでしょうか。しかしキダーは解決策もまた、聖霊に満たされる生活にあると言っています。（使徒言行録 1:8）

イエスは私たちに新たな命令をお与えになりました。

「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であること

を、皆が知るようになる。」（ヨハネ 13:34～35）

イエスのように愛するとは、神様の愛（アガペーの愛）によって愛することであり、これは、聖霊に満たされる時にはじめて可能となるのです。

「神に対する最高の愛、互いの無私の愛、これこそ、天父がさずけて下さる最上の贈物である。この愛は衝動ではなく、きよい原則、永遠の力である。献身していない心（聖霊に満たされていない、誰もか持っている心）は愛を起こすことも、生じることもできない。イエスに支配されている心にだけ愛は見いだされる。」（『希望への光』 1566 頁）

互いに「ただ」仲良くしていることと、それらを超越した神様の愛によって互いに愛するのでは全く違います。エレン・G・ホワイトはこの点について、明確な手掛かりを示しています。「柔和で静かな霊という装飾を身につけることで、100 人のうち 99 人の人生を台無しにしかねないほどの困難に対する解決を見出すことができるでしょう。」（『教会への証』 第 4 巻 348 ページ、英文）

テサロニケ第一 4:3～8 は結婚生活に適用される神様の言葉です。この聖句には、結婚生活において互いを清く敬う気持ちで生活することについて書かれており、それは感情に基づく異邦人の肉の心とは対照的なものです。聖別された生活について三度も繰り返し、さらに聖霊と共にあることについて言及していることから、私たちが結婚関係を変化させるためには聖霊と共にある生活をすべきだと勧められているのです。

神様は私たちが結婚生活においても大きな喜びと充実を味わうように願っておられます。このことは、私たちが肉の心ではなく、優しいいたわりの愛をもって互いに関わるように、神様が助けようとされていることの証拠ではないでしょうか。

イエスは、弟子たちの一致のために祈られました。

「父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。」（ヨハネ 17:21）

ウィリアム・G・ジョンソンはこう言っています。

「多くのアドベンチストは、キリストと一つになるとはどういう意味かを理解する必要があります。かつてはそれがあまり重要な事として結びつけられていなかったのかもしれませんが。あるいは全く見当違いのところ馬をつなげていたのかもしれませんが。」（『Adventgemeinde in der Zerreiβprobe』（Lüneburg 1996）、 118 ページ）

聖霊に満たされる時、キリストは私たちの内におられます。霊的クリスチャンの祈りは、主が祈りに答えてくださることに寄与します。エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「聖霊による一致によって神の民が一つとなるとき、ユダヤの国の罪であったすべてのパリサイ主義、自分を正当化するあらゆる思いがすべての人々の心から一掃される。…ずっと長い間隠されていた秘密を神は明らかにされる。「異邦人にとって栄光に満ちたものである、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望」（コロサイ 1:27）を明らかにされるでしょう。」（『セレクトッド・メッセージ』 第一巻 386 ページ、英文）

人々を矯正するための助言

神様の愛にまったくあるいはほとんど頼らないまま、人々を矯正するための助言をすることにどれほどの意味があるのでしょうか。教会の大部分が肉のクリスチャンによって構成され、牧師も教団の総理でさえ

も肉のクリスチャンであったと仮定するならば、教会は一体どのような決断をするのでしょうか。

私が牧師として働いた経験を振り返るならば、教会員が霊的であればあるほど、罪に陥った教会員を信仰に立ち返らせる傾向が強いように思います。彼らが悔い改め、告白したときにこそ、真の助言の目的が達成されるのです。

一方で肉のクリスチャンは、矯正するための助言を懲罰のように用い、力を行使する手段として誤用する傾向があります。（マタイ 18:15～17、コリント第一 3:1～4、コロサイ 10:3、ヤコブ 19）

終末における神様の預言の言葉

神様は重要な御業の進展を、これまでも預言者を通して明らかにしてきました。（アモス 3:7）ですから神様はエレン・G・ホワイトを通して、終末に関する重要な預言のメッセージをお与えになったのです。多くの事柄がかつてとは大きく全く異なるため、神による適切な「アップデート」はとても重要で大切なことでした。

エレン・G・ホワイトによれば、彼女に与えられたメッセージはキリストの再臨まで有効です。彼女の助言は、ライフスタイルの変革や叱責、勧告などであり、これらは肉のな人に比べて霊的な人の方が受け入れやすい傾向があります。（しかし、この助言を真剣に受け取ったからといって、必ずしもその人が霊的であるとは断定できません）

申命記 18:19 の言葉について熟考することは賢明でしょう。

「彼（預言者）がわたしの名によってわたしの言葉を語るのに、聞き従わない者があるならば、わたしはその責任を追及する。」

この言葉からも、真の預言者のメッセージは預言者自身によるものではなく、神ご自身に関するものであることが明らかです。では彼らが真の預言者であるかどうか、どのように判断するのでしょうか。神様のみ言葉は 5 つの判断基準を与えてくれます。真の預言者には次の 5 つが当てはまるはずで

- 1 彼らの生き方 「あなたがたは、その実で彼らを見分ける。」（マタイ 7:15～20）
- 2 預言の成就（申命記 18:21～22） *ヨナの場合のような条件付き預言を除く
- 3 神（神様のみ言葉）に対する忠誠への召し（申命記 13:1～5）
- 4 キリストを真の人であり真の神であると認めている（ヨハネ第一 4:1～3）
- 5 彼らの教えが聖書の真理と一致している（ヨハネ 17:17）

預言者を通して語られた助言も含めて、神様のすべてのご命令は私たちの最善のために与えられたものであり、とてつもなく価値のあるものです。霊的な人々は、喜びのうちに神様の力によって従い、これら一つひとつが人生の成功につながることを理解しています。

「あなたたちの神、主に信頼せよ。そうすればあなたたちは確かに生かされる。またその**預言者に信頼せよ。そうすれば勝利を得ることができる。**」（歴代誌下 20:20 下）

安息日学校研究ガイドには、聖霊と共にある生活と、真の預言者の言葉との関係について次のように書かれています。

「預言者の言葉を拒む人は誰でも、聖霊の導きに対して扉を閉じているのです。その結果はかつても今も変わりません。— 神様との関係を失い、悲観的な影響に心を開いてしまうのです。」（フィリップ・G・サマーン著 安息日学校聖書研究ガイド「勝利の幻 『ゼカリヤ書』」(1989年10月11日(水曜日)問8 続き)

計画と戦略

教会内の働きや伝道に役立つ良い解決策や手法を探すことは重要な作業です。どのような計画を立て、戦略を練るかは私たちにかかっていますが、教会が主によってどのように霊的に強められ、多くの魂を勝ち取ることができるかが重要なポイントです。

私は 65 年前にバプテスマを受け、牧師になってから 43 年が過ぎました。私たちは数限りないプログラムと手法を作り上げ、勤勉に働いてきました。

しかし、2005 年の世界総会でドワイト・ネルソン牧師が語った言葉についてもう一度瞑想する必要がありますでしょう。

「教会はこれまでも数々の素晴らしい形式や計画やプログラムを生み出してきました。しかし、私たち牧師や指導者たちを導かれる「聖霊」の欠如という霊的な破綻を認めない限り、私たちが優れているのは見かけだけ、というキリスト教の域を脱することは決してないでしょう。」（ヘルムート・ハウベイル (Hrsg.), Missionsbrief Nr.34, (bad Aibling, 2011) 3 ページ)

デニス・スミスも同様に語っています。

「計画やプログラムや方法論に意義を唱えるつもりはありません。しかし私たちはしばしばこれらのものに頼って、神の働きを前に進めようとしているように思えてなりません。計画やプログラムや方法論が神の働きを全うするものではありません。神の働きを終わりに至らせるのは、偉大な説教者や素晴らしいクリスチャンのコンサート、衛星放送ではなく、聖霊に満たされた男女が奉仕し、語る神の霊によるのです。」（『40 日』 88 ページ、英文）

バプテスマと救霊

聖書を読めば明らかですが、救霊の働きに最も重要な前提条件は聖霊です。（使徒言行録を参照）ドイツを例にあげるならば、成長している教会がある一方で、停滞している教会があり、縮小してしまった教会もあります。世界的に見れば、私たちの教会はここ 60 年の間に、教会員数が 20 倍に増えているにも関わらずです。

ドイツの問題を考える時に、多くの理由を挙げることができるでしょう。しかし私にとってはひとつのことがすでに明らかなのです。それは、聖霊の欠如が原因であるということです。この問題は私たちを強く捉えます。

私たちは多くの計画とプログラムを作り出し、実行してきました。しかし聖霊を欠いたまま、不必要な計画、上手くいくはずのない方法を追求してきたために、私たちの努力は多大な資金と時間の損失を招いてしまったのです。

この状況をエレン・G・ホワイトの二つの言葉が見事に説明しています。

「教会員が一度も改心を経験せず、あるいは改心したとしても逆戻りしてしまったために、主は現代において多くの魂を真理に導く働きを行うことができません。献身していない教会員（肉的クリスチャン）が、新しく回心した人々にどのような良い影響を与えられるのでしょうか？」（教会への証 第 6 巻 370 ページ、英文）

「神の前で謙虚になり、人々に対して親切で思いやりを示し、優しい心で接するならば、たった一人しか救霊の与えられていないところにも、百人の救霊が与えられるでしょう。」（教会への証 第 9 巻 189 ページ、英文）

一方で、十分に準備しないままバプテスマを授けている現実もあります。

エレン・G・ホワイトは次のように述べています。

「現代においては、新生は類まれな経験となってしまうました。教会に多くの困惑が見られる理由はここにあります。何と多くの人々が、キリストの名を聖なるもの、聖別されたものとして認識していないことで

しょう。バプテスマは受けたものの、葬られたあとも古い命が生き続けているのです。自我が死んでいないので、キリストにあって新しく生まれ変わる経験をしていないのです。」(MS148)

この言葉は 1897 年に書かれましたが、現在の状況とあまり大きく変化していないのではないのでしょうか。問題は、新しく生まれ変わるのでなければ、聖霊に満たされることはないということです。

キリストはおっしゃいました。「だれでも水と霊とによって生まれなければ、神の国に入ることはできない。」(ヨハネ 3:5) 実際、私たちはいたる所で聖霊の欠如と直面しているのではないのでしょうか。

聖霊と宣教

神様は聖霊と宣教の意味について、次のように語っておられます。

「みことばを説くことは、聖霊のたえまない臨在と助けがなければ何の効果もない。これが天来の真理の唯一の効果的な教師である。真理が聖霊に伴われて心に入る時にのみ、それは良心をめざめさせ、あるいは生活を一変させる。人は神のみことばの字句を示すことができ、そのすべての命令と約束とをよく知っているかもしれない。しかし聖霊によって真理がはっきり頭に入らないならば、魂は岩なるキリストの上に落ちてくだけないのである。どんなに教育があっても、どんなに大きな特典をもっている、神のみたまの協力がなければ、人は光のうつわとなることができない。」(『希望への光』 1029 ページ)

宣教は、説教する時だけでなく、講義や聖書研究、ケアグループにおいても起こりえます。ランディ・マックスウェルは次のように著しています。

「しかしながら真理とは、生きた神とのつながりを求めて、死ぬほどの渴きを経験することにほかなりません。」(『If my people pray...』(Pacific Press) 11 ページ、英文)

聖霊の欠如は私たちの恐れの原因ともなるのでしょうか？

エミリオ・クネヒテルの次の言葉を瞑想してみましょう。

「この墮落した世界を覆うことができないのはなぜでしょうか？ それは私たちの回心のどこかに間違いがあったからです。私たちは対立やいざこざや困難を恐れ、仕事や評価、命を失うことを恐れているのです。だからこそ、口を閉じ、身を隠しています。愛をもって力強く福音を世に宣べ伝えることを恐れているのです。」(CD Die Letzte Vorbereitung, Teil 6 ページ)

この問題の解決は使徒言行録 4:31に見出すことができます。

「祈りが終わると、一同の集まっていた場所が揺れ動き、皆、聖霊に満たされて、大胆に神の言葉を語りだした。」

聖霊と私たちの出版物

出版物について次のように書かれています。

「神の救いのみ霊が筆者に伴っているのであれば、読者も同じ霊を感じるはずですが。聖霊によって著されたものは、天使たちも認め、同じ霊の言葉を読者の心にも刻むのです。しかし、もし筆者が神の栄光の内に生活しておらず、完全に献身していないのであれば、天使たちは不足を感じて悲しみます。天使たちもその場を離れ、神も聖霊もそこにはおられないために、読者の心に印象深く刻みつけることができません。どれほど言葉が良くても、神の聖霊の温かな感化力が伴わないのです。」(PH016 29 ページ、英文)

もう一度強調しておきたいと思います。私たちが過去にしてきたことは、もちろんすべてが間違っていたわけではありません。決してそうではないのです。私たちは良いものも悪いものも作り出してきましたが、神様は確実に、あふれるばかりの祝福を人間の努力に注いでくださったのです。

しかし重要なのは、私たちがこの務めに肉のあるいは霊的のどちらの心で携わってきたかということです。確かなことは、肉的状态で解決を見出だそうともがくときに、私たちは多くの時間を虚しく費やし、ただ忙しいだけで何の役にも立たない働きをしているということです。

聖霊 …前の雨なくして、後の雨はない

「聖霊の満たしという前の雨が霊的な成熟をもたらします。それは後の雨の恩恵をうけるのに不可欠です。」（『40日』 第二巻 175 ページ、英文）

「地の収穫を实らせる後の雨は、人の子の再臨のために教会を備える霊的な恵みの象徴です。しかし前の雨が降らなければ命はなく、新芽は芽生えません。前の雨の働きがなければ、後の雨が種を豊かに実らせることはできないのです。」（『The Faith I Live By』 333 ページ、英文）

聖霊と聖書の聖化

「この働きは、キリストを信じる信仰によってのみ達成されるもので、神の霊の内住の力によるのである。」（『希望への光』 1824 ページ）

聖霊が不在のままでも大宣教はありえるか？

聖霊が不在のままでも、偉大な機関によって、成功をおさめる伝道プログラムや力強い宣教戦略を立てようとすることは可能でしょうか？

南アフリカの偉大な宣教師であったアンドリュー・マーレーは興味深いことを語りました。

「このようなシナリオは十分起こり得るし、実際にキリスト教界のほとんどの場所で現実にあることを知っている。」

彼は次のようにも著しています。

「私が説教をし、書物を著し、思考し、瞑想し、聖書の言葉や神の国のことで頭をいっぱいにしていても、明らかに聖霊が欠落していることは十分あり得ることです。キリスト教会のみことばの説教に力がなく、どれほど働いても永遠につながる報いが少なく、信者を聖なる者に作り上げる力がこれほど弱い理由はどこにあるのか自問してみてください。答えは明らかです。聖霊の力が欠けているからです。なぜ欠けているかと言えば、それは肉の心（ガラテヤ 3:3）と人間の力が、本来聖霊の力が働くべきところに居座っているからです。」（『If My People Pray』 145 ページ、英文）

聖霊と健康

「兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」（ローマ 12:1）

「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。」（コリント第一 3:16~17）

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。」（コリント第一 6:19~20 出エジプト 15:26 も参照）

聖霊に満たされた人は、神様の宮です。これがあなたの人生にどのような意味をもたらすかを、立ち止まって考えたことはあるでしょうか。神殿は神様がおられる場所です。神様はモーセに次のようにおっしゃいました。

「わたしのための聖なる所を彼らに造らせなさい。わたしは彼らの中に住むであろう。」（出エジプト 25:8）

この言葉と真摯に向き合うとき、私たちが健康やライフスタイルに細心の注意を払うことが、弟子訓練の非常に重要な部分となるはずですが、私たちの身体は神様のものです。神様のものは丁重に扱うべきだと思いませんか？ 私たちは自分の身体を神様の示される方法で大切に扱うべきです。そのためにはいくつかの規律が必要となります。聖霊に満たされた人々の多くは、喜びをもってこの規律に従うことを選びますが、その「褒美」として健康な体、精神、魂を手に入れるわけです。一方で聖霊に満たされ

てない人々は、不利益に苦しむことになるでしょう。

私たちは、神様の栄光と働きのために、また自分自身の喜びと霊と体の健康のために、できるだけのことをするように期待されているのです。ここでも聖霊に満たされることの代わりになるものはありません。聖霊を通して私たちの内にお住まいになるとき、キリストは「癒し主」となります。(出エジプト 15:26) 癒やしは当事者にとって、どんな場合でも神様の栄光につながる最善の出来事です。ここで疑問が生まれます。神はどんな人間でもお癒やしになることができるのでしょうか。

「タイの難民キャンプにある病院に、一人のカンボジア難民の老女がやってきました。彼女は仏教の尼僧の服装でした。彼女は「ドクター・イエスに治療してほしい」と願ったのです。そこで椅子に座らせて話をすることにしました。彼女はやがてイエスに信頼するようになり、心も体も癒されたのです。カンボジアに帰る時まで、彼女は 37 人をキリストに導くことになったのです。」(『Our Daily Bread ~ Worship book』(RBC Ministries), 26. Nov. 1993 著者不明、英文)

国王ヒゼキヤが病に伏したとき、神様は「確かに私はあなたをいやす」(列王記下 20:1~11) というメッセージを送りました。しかし偉大な言葉をもって癒やす代わりに、なぜ干しいちじくを患部に当てて治療をさせたのでしょうか。神様は私たちに自然療法や食事、運動、休息という目に見える成果をもって癒やしに関わらせたいと考えておられるのでしょうか。

神様はなぜパウロを癒そうとなさらず、その体に敢えてとげを残されたのでしょうか？ パウロ自身が次のように言っています。

「力は弱さの中でこそ十分に発揮される」(コリント第二 12:7~10)。

しかしながら、エレン・G・ホワイトは次のように書いています。

「病気の男女にとって、聖霊の感化に勝る薬はありません。天国には病はないのです。天国の感化力を深く認めれば認めるほど、それを信じる病人の癒やしはより確実なものとなるのです。」(『Medical Ministries』 12 ページ、英文)

次に紹介するビジネスマンの経験した話は、明確にその証拠を示しているでしょう。彼にとってはどのような健康セミナーもパツとしないものでした。しかし毎日聖霊を通して祈りつづけていくうちに、彼の生活はいつのまにか健康的なライフスタイルに変えられ、ベジタリアンにもなったというのです。この経験からも、聖霊に満たされるなら、喜びをもって健康的なライフスタイルに変化させる動機が与えられることがおわかりになるでしょう。

このストーリーを読んだ一人の姉妹は、次のような自身の経験を語ってくれました。

「イエス・キリストにすべてを明け渡すことを通して、神様は私の生活を一瞬のうちに変えてくださいました。明け渡しの祈りをしてからキッチンに行くと、いつものようにコーヒーマシンが目に入りました。私は首を横に振りながらこう思ったのです。もう二度とコーヒーを飲むことはないだろうと。

以前はコーヒーを飲むのを辞めようとしても、5 日間は頭痛などの禁断症状が続くので、完全にやめようなどと考えたこともありませんでしたが、今回は結果がどうであろうと全く気にしませんでした。やがて本当にコーヒーを飲みたいという気持ちが起きなくなったのです。」

これは彼女の人生に起きた変化のほんの一部です。**聖霊と共にある生活は、大いなる健康改革をもたらします。**健康に関する情報が変化をもたらす力とつながるからです。(ドン・マッキントッシュ / NEWSTART グローバル・ディレクター)

「どんなに優れた内容であっても、単に健康に関する情報だけでは不十分です。現代において本当に必要とされているのは、実際に変化をもたらす力を伴う健康情報なのです。」(『D' Sozo, Forward』 デーブ・フィードラー)

ティム・オウ医師は次のように言っています。

「健康に関する情報を提供するだけでは、医療伝道の働きをしていることにはなりません。神の掟が救いをもたらさないように、健康教育が癒しをもたらすではありません。健康も救いも、変化をもたらす神の力のゆえであることを理解しなければなりません。」（『D' Sozo, Forward』 デーブ・フィードラー）

最後に次のようにお尋ねしたいと思います。それでは信仰の癒やしの場合はどうでしょう？ 聖霊に満たされることなく、それを期待することができると思われるでしょうか？（マルコ 16:17、18、ヤコブ 5:14～16 を参照）

キリストの再臨への準備

再臨に備える（あるいは主にあつて地上の生命を全うする）ために、聖霊を通してイエスと親しく交わることの代わりになるものはありません。聖霊を通して私の内にキリストがお住みになるときに初めて、キリストの恵みによって備えられるのです。このことは 3 つの点で明らかです。（『Spirit Baptism and Earth's Final Events』 デニス・スミス）

1 キリストとの個人的な交わり

キリストは言われました。

「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」聖書に記されている「知る」という言葉は、現在使われている言葉の意味よりも深い意味があります。それはお互いの愛による完全な献身を意味します。これは聖霊が伴って初めて達成されるものです。このことが次の文章で解説されています。

「神と生きた関係を持ち、聖霊のバプテスマによって天来の力に覆っていただく必要があります。それによってより高い基準に達することができるのです。というのも、助けとなる方法は他にはないからです。」（Review and Herald April 5, 1892 エレン・G・ホワイト）

十人のおとめのたとえ話で、イエスは愚かなおとめに向かって次のようにおっしゃいました。「私はあなたがたを知らない」。

理由はどこにあったのでしょうか。彼女たちには油が無かったからです。聖霊が無かったからなのです。（マタイ 25:1～13）

キリストを十字架につけた人々は旧約聖書の知識に長けていました。しかし誤った解釈をしていたために、キリストとの個人的関係を求めようとはしませんでした。

終末世代に生きる私たちは、終末の状況を踏まえて、さらに深い神との結びつきが必要であることにどれほど気づいているのでしょうか。

2 信仰による義認

三天使の使命に記されている最後のメッセージの中に、「永遠の福音」を宣べ伝えることに関する質問があります。（黙示録 14:6、7）

全世界の人々が知るべきであり、やがて知ることになるメッセージのポイントとは何でしょうか？ それは、信仰を通してのみ得ることのできる、イエス・キリストの恵みによって義とされることです。（エペソ 2:8、9）この最後のメッセージを力強く宣べ伝える人々は、自らこの力を経験する必要があります。罪を赦し、罪から救ってくださるキリストを通してのみ与えられる「信仰による義」を知り、経験する必要があります。これは聖霊に満たされて初めて可能となります。この経験をを通してイエス・キリストは、私たちが神に服従できるようにしてくださるのです。私たちは神様の命令に従うことで、私たちのうちにキリストがお住みになっていることを表すのです。世界はこのメッセージによって光り輝くことでしょう。（黙示録 18:1）

3 真理への愛

私たちの日常生活において、聖霊がおられるか不在かで、**真理への愛、み言葉の学び、そして真理を生活に応用すること**についてどれほどの差異があるのでしょうか。テサロニケ第二 2:10 には次のように書かれています。

「…彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる真理を愛そうとしなかったからです。」惑わされることのない人々の心の中には、真理を愛そうとする思いがあります。彼らはどのようにしてその愛を手にするのでしょうか？ それは聖霊を通して、イエス・キリストに内住していただくことによるのみ手に入れることができるのです。

ローマ 5:5 には、聖霊によって、神様の愛がわたしたちの心に注がれていると書かれています。エフェソ 3:17 には、聖霊を通して「愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださる」とあります。ヨハネ 16:13 には、聖霊は「真理の霊」と呼ばれています。このことから、真理を愛するためには、霊的なクリスチャンになる必要があることが明らかです。

真理への愛、神のみことば、証の書について、私たちは何か欠乏を感じているのでしょうか。私たちの将来に目を向けてみましょう。「聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けたものだけが、世界をとりこにする強力な惑わしから守られる。…神の民は、自分の感覚的証拠に屈しないほど、今神のみ言葉に固く立っているだろうか。」（『希望への光』 1903～1904 ページ）

神様は真理をすべて見出したかどうかではなく、真理を愛しているかどうかをお尋ねになっておられるのです。

聖霊の実か、肉の働きか

「聖霊による影響とは、魂の内にあるキリストの命です。私たちはキリストを見ることも、話しかけることもできませんが、聖霊は、私たちがどこにしようとすぐそばにいてくださいます。キリストを受け入れた人であれば誰にでも内住してくださるのです。**聖霊の内住を知っている人は、聖霊の実を表します。**」（『アドベンチスト聖書注解』 第 6 巻 1112 ページ、英文）

「**霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実**」（ガラテヤ 5:22）「あらゆる善意と正義と真実」です。（エフェソ 5:9）

ガラテヤ 5:16～21 は、聖霊は私たちの内で罪の力を破壊してくださると言っています。

「…霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して**肉の欲望を満足させるようなことはありません**。肉の望むところは、霊に反し、霊の望むところは、肉に反するからです。肉と霊とが対立し合っているので、あなたがたは、自分のしたいと思うことができないのです。しかし、**霊に導かれているなら、あなたがたは、律法の下にはいません**。（ローマ 7:23 と 8:1 を参照）肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのもです。以前言っておいたように、ここでも前もって言いますが、このようなことを行う者は、神の国を受け継ぐことはできません。」（ガラテヤ 5:19～21）

霊の賜物

「**霊の賜物**というのは、聖霊の働きによって与えられる賜物を意味します。コリント第一 12:28 とエフェソ 4:11 によれば、使徒、預言者、伝道者、牧師、教師、奇跡を行う者、援助する者、管理する者、異言を語る者などです。これらの賜物は、聖なる者たちを奉仕の業に適した者にする役割を持っています。

「…賜物は教会の証となり、教会を統率し、導いてゆくのです。」（『Hrsg. Gerhard Rempel』 44 ページ）

聖霊は特別な目的のためにほかの賜物も与えます。

「知恵を授けたり、工芸をさせたり」（出エジプト 31:2～6）、「建築をさせたり」します。（歴代誌上 28:12、19）

キリストの弟子になりたいと願うなら、私たちがあるがままの自分自身と、持っているすべてのものをキリストに献げるべきです。私たちが生まれつき持っているものも、学んで獲得したものも、すべての才能や能力をキリストにお任せするのです。キリストは才能を更に伸ばしてくださるか、または生まれつきの能力をさらに清め、精錬してくださるはずですよ。

聖霊を受けることなしに霊の賜物を持つことなどできるものでしょうか？

神様が選んだのか、それとも人間が選んだのか？

私たちの教会は世界規模の民主主義組織です。しかし、この地上の民主主義と同じとはとらえていません。

私たちが投票する真の目的は、一人ひとりが神様の御声を聞き、それに従って投票をすることです。神様の御声に耳を傾け、投票を通して神様の御心を知らしめるのです。どのような理事会が開かれる場合であっても、私たちはその前に必ず祈りをささげます。投票の前にも祈る時間が与えられることがよくありますが、それも神様が一人ひとりにどのように投票してほしいと考えておられるかを明確にするためです。

ネヘミヤは次のように言っています。

「わたしは心に神の指示を受けて…」（ネヘミヤ 7:5）

また、エレン・G・ホワイトはネヘミヤ 1 章についてこのように著しています。

「彼が祈るとき、聖なる目的が彼の心の内につくり出された。」（『Southern Watchman』 March 1, 1904、英文）

肉的クリスチャンは神様の声を聴くことができるでしょうか？ 意識的に主に完全に明け渡していない人は、主から答えをいただくことは決してできません。（詩編 66:18、詩編 25:12 を参照）

肉的なクリスチャンができるかぎりの思いを尽くして投票したのであれば、人間の目からはそれでいいかもしれませんが、それが自分の思いを納得させるだけにとどまってしまうならば、ごまかしという罪になってしまうのです。

神様の働きにおいて、指導者は大きな影響力を持っています。指導者が神に召された人であるか、それとも人間的な投票によって選ばれた人であるのかでは、重要な決断において、間違いなく大きな違いを生むこととなります。

祈りについて読んでいた時に、どちらに行くべきかを神様に尋ねるべきだと気づきました。（詩編 32:8 参照）静かに神様の御声に耳を傾けることで、私の人生はすっかり変わったのです。

2014 年 10 月 23 日に、次のような経験をしました。オーストリアのカリンシアにある、オーストリア・カントリーライフ研究所で、私はある決断に迫られていました。施設を増築すべきかどうかです。どちらにも利点や欠点がたくさんありました。

一番重要だったのは、この建設について神様の御心はどこにあるかということです。そこで、もはや建設の利点欠点については議論せず、むしろ、ニュースタートのゲストが帰った 10 月 23 日の祈禱会で、増築すべきかどうか、神様の御声を聴くことができるように、それまでの 10 日間祈り続けることを提案しました。

祈禱会には 20 人以上が参加しました。交わりの後、一人ひとりが増築すべきかどうか、黙禱をして神様に尋ねました。そのあとで各自が神様からいただいた答えを分かち合うことにしました。

白紙に、増築ならば「+」、しないならば「-」、答えがなければ「○」と書き、答えが定かでないならば「？」とその横に書き加えることにしました。結果は神様の素晴らしい導きによるものでした。「+」が 14（そのうち「？」がついているものが 4）、「○」が 6、そして白紙のままが 4、答えが不確かな 2 票は除外

しました。

増築するべきだと神様が導いておられるのは明らかでした。終末時代においては、ますます神様の導きを直接求める必要があると確信しています。

ヨエル 2:28、29 はこのことに触れています。エレン・G・ホワイトは次のように述べています。

「神が心に語りかける声に一人ひとりが耳を傾けるべきです。他のあらゆる声がうるさくとも、静かに神の御前に待ち、静まった魂はよりはっきりと神の声を聴き分けます。神は私たちに命じます。『静まって、わたしこそ神であることを知れ』（詩編 46:10 口語訳）」（『希望への光』 858 ページ）

金銭

霊的クリスチャンと肉的クリスチャンの間には、金銭を得たり、関わったりする場合にどのような違いがあるのでしょうか。果たして私たちは財源の所有者でしょうか？ それとも神に委ねられた管理者でしょうか？

「お金を愛する心と見せびらかしたいという思いは、この世を盗人の巣窟としてきました。み言葉は、キリストの再臨前に、貪欲と憂うつがはびこることを示しています。」（『希望への光』 1846 ページ）

神を畏れる人々を神の天使は守る

神様を畏れる人々を神の天使は守ってくださいます。

「主の使いはその周りに陣を敷き、主を畏れる人を守り助けてくださった。」（詩編 34:8）

「キリストに従う一人ひとりに守護天使が定められています。この天の番人たちが義人たちを悪人の力から守っているのです。」（『各時代の争闘』 512 ページ、英文）

神様を畏れる人々やキリストに従う人々、神様の御加護の下にいる義人たちには、クリスチャンと自称するすべての人々が当てはまるのでしょうか？ 神様に完全に自分自身を明け渡してない人々も含むのでしょうか？ 子どもたちについてはそうかもしれません。なぜならマタイ 18:10 に次のように書かれています。

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言うておくと、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。」

ダビデは神様に命がけで信頼していたので恐れを知りませんでした。

「主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう。主はわたしの命の砦、わたしは誰の前におののくことがある。」（詩編 27:1）

*神の天使の働きについて著されている『各時代の争闘』 第 31 章をお読みになることをお勧めします。神の民一人ひとりにとって大きな喜びとなるはずですよ。

終わりに

この章で取り上げたものは、ほんの一部に過ぎません。人生と信仰については、もっと触れるべき事柄がたくさんあります。しかし、それらについては次のように言うことができます。

違いを振り返ってみるならば、聖霊と共にある人生において、大きな益を得られない人生など存在しません。言い換えるならば、聖霊不在の人生においては、私たちは必ず不利益を被ることになります。このことこそ、日々、生活全体を神様にお献げして、聖霊に満たしていただくように祈り求める、大きな動機となるのではないのでしょうか。

「数年前に東京国際空港からロンドンに向かってボーイング 707 が離陸しました。とても順調な離陸でした。空も快晴で良好でした。間もなく機上から有名な富士山を眺めることができます。すると機長は突然、乗客に素晴らしい眺めを楽しんでもらおうと、富士山を旋回することを思いついたのです。

機長は既定の飛行経路から外れ、有視界飛行に切り替えました。有視界飛行とは、航空交通管制塔の指示を受けず、パイロット自身が目視で飛行するという方法です。美しい富士山がすぐ真下に見えました。高度計は 4000 メートルを示していました。しかしパイロットは重要なことを見落としていたのです。それは富士山山頂付近に吹きあれる気流のことです。ボーイング 707 のエンジンで太刀打ちできるようなぐい突風ではありません。やがて機体は気流に吸い寄せられ、機体は制御不能となって墜落し、乗員全員が亡くなってしまったのです。

肉的なクリスチャンは「有視界飛行」で人生を生きているのと同じです。すべての決断を自分自身で行うからです。できる限りのことをしつつしたとしても、確実に失敗します。

霊的なクリスチャンは、聖霊を通して神様への愛と信頼に満ちた関係のうちに生きて行きます。神様は、彼らのような人々を常に安全な場所へと導いてくださるのです。

共に祈りましょう

天の父なる神様。聖霊を通して内住してくださるイエス・キリストが私たちに、また私たちの働きに、これほどの偉大な違いをもたらしてくださることを感謝いたします。

聖霊の働きに対してもっと私の目を開いてください。聖霊を通して、イエス様が与えたいと望んでおられる充実した人生をお与えください。

次の章で学ぶ、これらの問題を解決する鍵を私が見つけることができるように、そしてそれらを生活において実践できるように助けてください。

感謝してお祈りいたします。 アーメン

第 5 章

実際に経験するための鍵

神様の解決方法を実際に活用し、経験するためにはどうしたらよいのか？ 聖霊に満たされるためには、どのように祈ったらよいのか？

祈りと聖霊に満たされること

信仰をもって聖霊を求め続けていくことはとても重要なことです。聖霊を求める祈りをささげるときには、祈っている最中も、神様が必ず聖霊を与えてくださると、信仰を通して神様に信頼する必要があるということです。

ガラテヤ 3:14 には、「わたしたちが、約束された“霊”を信仰によって受ける」と書かれています。別の訳では「わたしたちが、約束された聖霊を、キリストを信じることによって受ける」とあります。神様は常に偉大な助け手となってくださるので、私たちは完全に天父に信頼することができます。このような祈りを「約束に基づいた祈り」と言い換えることができますでしょう。

約束に基づいて祈る

次のような例えをお話しましょう。

あなたの子供が学校で英語があまり得意でないとします。子供が英語を一生懸命勉強するように、あなたは励ましたいと思っています。そこでテストで良い成績を取ることができたらご褒美に 2000 円あげると約束しました。

子供は真面目に英語を勉強し始め、実際に良い成績を取ることができたとして、次に何が起きるでしょうか？

子供は学校から戻り、玄関を開けると大声で、「パパ！ 2000 円！」と叫ぶでしょう。なぜ彼は自分が 2 千円をもらえると確信しているのでしょうか？ 父親と約束し、その約束を果たしたからです。これ

はほとんどの人にとって当然の要求であるはずで

人間の親なら、たまたまそのときに財布に 1000 札が 2 枚入っていないこともあるかもしれませんが、神様が約束した褒美を持ち合わせていないことなどあるでしょうか。断じてありません。

あるいは人間なら、突然約束を反故にして次のように言うかもしれません。

「子どもに勉強させるのに、褒美でやる気にさせてはいけなと教育書に書いてあった。だから 2000 円をあげるのは中止だ！」

しかし神様が約束された後で、心変わりされることなどあるでしょうか。絶対にありません。

もし私たちが神様と約束し、その条件を満たしたのであれば、起きる結果はたった一つです。それは神様から、約束のとおりを受け取るということです。

神様は私たちに、約束を通して「ある方向」に進んでほしいと願っておられます。例えば、私たちの人生に力を与えるために、聖霊を受けてほしいと神様は願っておられます。それだけではなく、私たちが神様に信頼するように求めておられるのです。信頼するとは神様への信仰を強くすることです。

約束に基づいて祈ることについて、ヨハネ第一 5:14~15 から鍵となるみ言葉を学んでみましょう。

「何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。」

神様は御心に従って祈るならば、その祈りに応えてくださるという明確な約束を与えてくださいました。神様の御心は、掟と約束のうちにあります。祈りつつ掟と約束により頼むのです。するとどうなるでしょうか。15節を読んでみましょう。

「わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既にかなえられていることも分かります。」

別の訳では、

「神が願い事を聞いてくださることを知っているなら、わたしたちが神に願ったことはすでにここにあることを知るのです。」

この言葉はどのような意味でしょうか。神様の御心に沿って祈ったことは、それが神様のみ前に差し出された瞬間にすでに答えられているということです。しかし多くの場合、感情においては何一つ気づくことはありません。私たちの祈りは感情によってではなく、信仰によって答えられるからです。感情は後からついてくるものなのです。

タバコ／アルコールの中毒と闘っておられる方と祈っている間に学んだことがあります。ニコチンやアルコールから自由になれるようにと祈り求めた瞬間は、何の変化にも気づきません。答えは信仰によって得るものだからです。しかし数時間経つと、不思議なことにタバコやアルコールが欲しいと思わなくなっているのです。このとき、祈りに対する答えを実際に受け取ることになります。

キリストはマルコ 11:24 で次のようにおっしゃいました。

「だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。」

エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「目に見える祝福を探す必要はありません。贈り物はすでに約束の内にあるのです。神様が約束されたことは必ず果たされると信じて働きに出てゆくのです。そうすれば、私たちはすでに手の中に受けた贈り物を、最も必要な時にはっきりと認めるようになるのです。」（『教育』 258 ページ、英文）

別の証拠をわざわざ探す必要はありません。感情的な経験は重要ではないということです。ロジャー・モルノーは、次のように言っています。

「悪霊は、キリストと預言者の言葉に信頼するのではなく、感情に耳を傾けるように誘惑します。悪霊の得意とするところは、人々に何が起きているのかを知らせないまま、一人ひとりの人生をコントロールすることです。」（『A Trip into the Supernatural』 R&H 1982 43 ページ、英文）

約束に信頼して祈る祈りが、私たちのために用意されている神様の宝物庫を開く鍵となります。愛する天の父は、私たちのために尽きることのない口座を開いてくださいます。

「神の弟子たちは、神の約束に信頼するならば、偉大な結果を期待できるのです。」（『各時代の希望』 668 ページ、英文）

二種類の約束

同時に大切なことは、聖書の中にある約束を注意深く区別することです。「**霊的な約束** 例えば『罪の赦し、聖霊、神のために働く力』は、いつでも願って手に入れることができます。（使徒言行録 2:38～39 を参照）しかし、一時的な祝福に預かる約束については、たとえそれが命に関わることであったとしても、神の最善の御心に従って、与えられることもあれば、与えられないこともあるのです。」（モーリス・ベンデン『95 Theses on Righteousness by Faith』 6 ページ、英文）

イザヤ書 43:2 には次のようにあり書かれています。

「火の中を歩いても、焼かれず、炎はあなたに燃えつかない。」

神様は、燃える炎の中にいた三人の青年のために素晴らしい奇跡をもってこの約束を成就なさいました。（ダニエル書 3 章を参照）その一方で、宗教改革者であったフスやイエロニームはコンスタンスで火刑に処されました。彼らの祈りは聞かれなかったのだ、と結論づける人もいるでしょう。しかし理解を超えるような方法で、神様は彼らの祈りに答えられたと考えることもできるのです。

この二人の殉教者について、当時のカトリック教徒は次のように書いています。「いよいよ最期の時が近づいても、二人は平常心を保っていた。彼らはあたかも結婚式に向かう前のように火が放たれるのを待っていた。苦痛の叫びは一切聞こえなかった。炎が燃え上がった時、彼らは讃美歌を歌い始めた。どんなに激しく燃え盛る炎も、彼らの歌を少しも止めることはできなかった。」（『各時代の争闘』 109 ページ、英文の引用文）

火刑に処された場合、普通なら絶叫することしかできません。しかし彼らの最期の様子を読む時に、私たちの理解を超えてはいるものの、神様がこの時、この場所に介入されていたことは明らかです。この経験は、たとえ一時的な約束であっても、私たちにとっては大きな意義があることを教えているのです。

答えてくださることに感謝すること

さらにもう一つ重要なことがあります。私たちが願った瞬間に、神様が私たちの願いを受け取ってくださるのであるなら、**祈っている時点で、答えてくださる神様に感謝をささげるべきだ**ということです。神様は私たちの祈りにすでに答えてくださっていて、最も必要な時にそれが成就する、と信じて感謝することは、私たちの信仰の表明になるのです。

祈った瞬間に変化に気づく人も場合によってはいるかもしれませんが、多くの人はエリヤと同じように、主は嵐の中にも、地震の中にも、火の中にもおられず、ただ小さな声の内におられた（列王記上 19:11～12）という経験をするでしょう。私の場合もそうでした。長い期間、私は変化など何ひとつ起きていないと思っていました。しかし突然、多くのことが私の気づかないところで起きていた事実を目の当たりにすることになったのです。

私の考え方を変える

つまり私たちは今、**自分の考え方を変える必要がある**ということです。

「…むしろ、心を新たにしてお変えていただく」のです。（ローマ 12:2）

次のように神様に伝えるのです。

「私の祈りに答えてくださってありがとうございます。私の願いをすでに受け入れてくださったことに感謝します。もっとも良いタイミングで私に経験させてくださることを感謝します。」

これは自己操作とは違います。自己操作は、無理に自分を納得させようと努めることです。しかし約束を信じて祈るとき、信仰を通してすでに答えは与えられているのですから、神様の内に確かな根拠が存在するわけです。自分の考え方を変えない人は、神様に信頼していないことを表明しているのであり、代わりに自分の感情に信頼を置いているのです。このような態度は、神様を嘘つき呼ばわりすることであり、結果的に何一つ得ることはできないでしょう。

何も感じられなかったとしても、祈りの結果を信じて行動することも重要です。神様はいつでも私たちが信頼するように招かれます。

イスラエルの民がヨルダン川を渡った時のことを想像してください。祭司が先頭を切って水の中に足を踏み入れた瞬間に、川の水は二つに分かれたのです。ナアマンは癒される前に、体を七度も水に浸けなければなりませんでした。

次のように反論したくなるかもしれません。

「そんなことはしたくない！ いったい何の意味があるのかわからない」と。

しかし私たちの周りは説明できないことばかりです。

今日誰もが利用している電気についても、完璧に説明することなどできませんし、赤ちゃんがどのように言葉を覚えていくのかについても未だ十分には分かっていません。しかしどの子もしゃべるようになるのです。

「自然界は私たちの理解を越えた不思議であふれています。そうであるならば、霊的な世界に理解できない不思議があったとしても、何も驚くには及ばないはずです。」（『教育』 170 ページ、英文）

箴言 3:5~6 について考えてみましょう。

「心を尽くして主に信頼し、自分の分別には頼らず、常に主を覚えてあなたの道を歩け。そうすれば、主はあなたの道筋をまっすぐにしてください。」

ここに、神様によって進むべき道をまっすぐにしていただく条件について明白に記されています。条件の一つひとつは掟でもあります。条件を十分に満たしているかどうか判断できないのであれば、覚悟を決めて、神様が確信で満たしてくださるように祈るべきです。

「…しかし神に対して覚悟ができるならば、神はあなたのためにその働きを成就してくださるでしょう。」（『祝福の山』 142 ページ、英文）

小さなことの積み重ねが助けになることでしょう。神様の約束に信頼して祈り、自分自身の状態を十分に吟味して条件を満たしていることがわかったあとでも、まだ祈りが答えられるかどうか不安に思うのですか？ それは神様を嘘つきだと言っているのと同じことです。

どのような状況下であってもこのような態度をとるべきではありません。このような場合には次のように祈るのです。

「主よ、信じます。私の信仰を強くしてください」と。そして神様に信頼するのです。

エレン・G・ホワイトの『教育』という著書の「信仰と祈り」という章では、約束を信じて祈ることについて、とても大切な助言が著されています。

聖霊を求めて祈る

聖霊を求めて祈ること以上に尊い働きは存在しない、と私は考えています。しかしそれは、神様の御心

を私たちの考えと同化させることとは違う、ということを忘れてはいけません。そうではなく、神様の存在と約束こそが、信じるに値するのだということを疑わないことです。

聖霊を受ける約束

聖霊を受けることについて、神様は私たちに素晴らしい約束を与えてくださいました。

「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」（ルカ 11:13）

天の父なる神様は、約束の鍵を示してくださっているのではないのでしょうか。この素晴らしい約束を受ける条件は「求める」ことです。しかもキリストは、一度だけではなく、常に求め続けるように望んでおられるのです。

ここでしっかりと文脈を理解する必要があります。同様の事柄について述べている別の聖書の言葉を読んでみましょう。例えば「わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」（使徒言行録 5:32）

この約束の条件は「神に従う」ことです。このように一つの聖句だけでは十分ではないことがお分かり頂けたでしょうか。神様の約束については文脈を捉えなければいけません。自分にとって都合のいい掟に一度だけ従う、ということではなく、素晴らしい救い主であり、友であるキリストに従い続けることを意味しているのです。服従は喜びを生み出します。

祈りのうちにキリストに服従する心を求めましょう。キリストの願い、キリストが達成するように求めておられることには何にでも従うことができるように祈り求めましょう。このことが神様の働きを行う前に必要な資格を備えさせてくれるのです。

「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。」（ヨハネ 7:37）この約束は、日々聖霊を求めているかどうかに関わることです。聖霊をほとんど、あるいはまったく求めていないのであれば、この瞬間から求めて祈りましょう。この祈りは神様の御心に沿った願いであり、必ず答えられる祈りです。祈り求めるならば、偉大な神様は私たちのうちに「願い」と「成就」をもたらしてくださいます。

心をすべて捧げて神様を愛し、喜びをもって奉仕し、神様とさらに深く交わることができるように。また日々キリストを求め、キリストの再臨を通して神の御国で一つに結ばれたいという希望についても祈りましょう。失われた魂を救うために自分を造り変えてください、と祈ると同時に、み言葉を瞑想し、そこから深く学び取ることができるように祈りましょう。

「わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。イエスは、御自分を信じる人々が受けようとしている“霊”について言われたのである。」（ヨハネ 7:38~39）

この約束における条件は「信じること」です。もうお分かりのように、イエス・キリストを信じること、神様に信頼を置くことが聖霊を受ける前提条件なのです。約束を信じて祈るならば、信頼することはたやすいことなのです。

「わたしが言いたいのは、こういうことです。霊の導きに従って歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」（ガラテヤ 5:16）

ここでは**約束**が命令形になっています。もし神様が聖霊と共に歩むように望まれているのであれば、私たちが聖霊で満たそうと願っておられることは明白です。そして聖霊に満たされるなら、肉の欲望を満足させようなどとは思わなくなるのです。私たちの内側で、聖霊が罪の力を滅ぼしてくださいからです。

(ローマ 8:1~17 特に 2 節を参照) 聖霊を通して、「私たちの肉の仕業」を絶つのです。パウロは自分について「日々私は死ぬ」と言っています。肉の欲望を満足させようとせず (ガラテヤ 5:18~21)、代わりに聖霊の実を育てること (ガラテヤ 5:22) にはとてつもない価値があるのです。

私たちの生活の中に罪が侵入しないようにすることは、双眼鏡を組み立てる工程にも例えられます。レンズの中に小さな塵が入らないようにするためには、部屋全体を過圧する必要があります。つまりドアを開けるときに、空気が常に外に出るようにしなければならないということです。このようにすれば埃は入りようがありません。同様に、聖霊に満たされているならば、「決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。」

更に学びを深めるために、5章の終わりにある「人は霊的な状態のままにい続けることができるか？」を参照してください

「どうか、御父が、その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強めて、信仰によってあなたがたの心の内にキリストを住まわせ、あなたがたを愛に根ざし、愛にしっかりと立つ者としてくださるように。…そしてついには、神の満ちあふれる豊かさのすべてにあずかり、それによって満たされるように。」(エペソ 3:16~17, 19)

私たちは長い間このような力から遠ざかっていたかもしれません。

自然界に目を向けてみましょう。木々は冬には一度枯れたような状態になりますが、春が来れば再び緑で覆われるように、新しい命を甦らせるためには「とてつもない力」が働いていることがわかります。私たちは力そのものを目にしたり耳で聴いたりすることはできませんが、その結果を見ることができます。私たちに対しても同じなのです。神様が「とてつもない力」を私たちに与えてくださることに感謝しようではありませんか！

もう一つ例をあげてみましょう。私たちの体内に電流が流れていることは昔から知られている事実です。しかし電気が流れていても、私たちはそのことに気づいていません。

「霊に満たされなさい」あるいは「霊に繰り返し満たされ続けなさい。」(エペソ 5:18) (ヨハネス・メイジャー 『Auf den Spuren des Heiligen Geistes』 101 ページ、独文)

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、わたしの証人となる。」(使徒言行録 1:8)

弟子たちは果たすべき働きの前に、聖霊の力が下るまで待ち続けました。しかし何もしなかったわけではありません。

「弟子たちは日々の生活の中で、人々と出会い、罪人をキリストに導く者としてふさわしい言葉を語るができるように、力を求めて熱心に祈っていたのです。そして各々の違いや権力を求めようとするあらゆる野望を捨て去ったのです。」(『患難から栄光へ』 36~37 ページ、英文)

私たちもこの約束に信頼して祈りましょう。

良い結果がひとつもない・・・？

ある青年が助言を求めていました。彼は聖霊に満たされることを渴望し、もがいていたのです。牧師は彼に次のように尋ねました。

「自分の意思を完全に神様に委ねきれたかい？」

「いいえ、とてもそこまでは・・・」

「神様に完全に委ねきれないのだったら、聖霊に満たされたいと祈っても意味がないだろうね。」

「たった今ここで神様に自分の意志を完全に委ねてみてはどうだろう？」

青年は「それは無理です」と答えました。

「でも、神様にそうしてほしいと思う？」

「それはもちろんです！」

「それなら、そうして下さるように神様に頼んでみたら？」

そこで青年は祈り始めました。

「神様、私自身の思いを空っぽにしてください。あなたの意志に完全に委ねることができるように、私を造り変えてください。あなたの前に私の意思を置きます。代わりにあなたのご意志をください。イエスさまの御名を通してお祈りします。アーメン。」

それから牧師は青年に尋ねました。

「できた？」

「できたと思います。だって、神の御心に適うことを私たちが願うなら、神は聞き入れてくださいますし、神様に願ったことは既になんかえられているはずですから。(ヨハネ第一 5:14~15) それに、私の意志を神様の前に置くことができました。」

牧師は力強い口調で「では聖霊に満たされるように、聖霊のバプテスマを求めましょう！」と言って祈り出しました。

「神様、聖霊のバプテスマを今願い求めます。キリストの御名を通してお祈りいたします！」

するとどうでしょう。神の前に自分の意志を置いた途端に、それは瞬時にして起こったのです。(レーベン・A・トリー『Der Hilige Geist – Sein Wesen und Wirken』 150 ページ、独文)

人生の前と後では大違い

長い年月、約束と共に祈ることに慣れ過ぎてしまい、特別な祈りをささげる時や、祈りに対して目覚ましい答えが欲しいときにはそうしていたのに、普段は特別な約束などに頼らなくても、祈りの中でただ聖霊を求めるだけで十分だと思い込んできました。

共感される方もきっと多いはずですが、それが間違いであったとは言いたくありませんが、しかし私の個人的な経験を振り返るならば、約束に信頼せず、このような祈りしかささげてこなかったことが非常に悔やまれてなりません。

ここ数年は、毎日聖霊を求める約束に基づいて祈っています。すると、祈り終えた後に、聖霊に満たされている確証が与えられるのです。

2011年1月28日の経験を通して、私の人生の前と後ではまったく違うことに気が付きました。約束に基づいて祈り始めると、神様との関係はより親密になり、キリストが私のすぐそばに座しておられるのを感じ、それが次第に私にとって人生最大の喜びとなったのです。これは単に感情に基づいた主観的な経験ではなく、次にあげるような事柄とリンクされるようになったのです。

* 聖書を読むときは、いつも新鮮で、励ましとなる洞察を受けるようになった

* 誘惑にあっても、勝利し続けている

* 祈りの時間が重要に思えてきて、祈ることが大きな喜びに変わった

* 神様が多くの祈りに答えてくださっていることに気づくようになった

* キリストのことを他の人に大胆に語れるようになり、伝道の喜びが増してきた

* 友達とより親密に交わることができるようになった

* 神様の恵みの中で幸福に生きていると思えるようになり、神様の御手の内で平安に過ごしている

* 大変な問題が起きても、主が素晴らしい方法で私を守り、心の内側から力づけてくださる

* 主が私に与えてくださっている霊の賜物が何であるかが分かった

* 人を批判するのをやめた。また他人を批判する声を耳にすると気分が悪くなる

変化は静かに起こるものです。最初にこのことに気づいたのは、日々聖書の約束に基づいて聖霊を求めて祈っていたときでした。この時以来、わたしは従来とは全く違ったキリスト教を経験しています。これまでは、神様と共にある生活は正直とても面倒で困難なものでした。しかし今では喜びと力にあふれる体験に完全に変わってしまいました。

これまで聖霊が不在だったために、結婚生活や家庭においても、また牧会の働きにおいても敗北の人生であったことが残念でなりません。このことに気づいたとき、私は心から主に赦しを求めました。

自分が経験した以上に人々を導くことは不可能である、というのは、牧会の働きにおいては残念ながら真実です。また家庭や教会における個々の欠点は、やがて積み重なって倍増する危険性があることも忘れてはいけません。

皆さんが私と同じ間違いをして過去を嘆く日が来ないように、もう少しだけお伝えしようと思います。

ペテロ第二 1:3~4には、キリストとの親しい交わりを通して「尊く素晴らしい約束を通して、…神の本性にあずからせていただくようになる。」と書かれています。この聖句は、約束を通して聖霊が与えられることを表しています。

約束とは銀行手形のようなものです。口座の所有者本人の署名が入った手形があるなら、他人であってもその口座からお金を引き出すことができます。私たちは神の子として（ヨハネ 1:12）キリストの署名入りの手形によって、日々神様の口座から引き出すことができるわけです。

自分自身の署名が入った手形を何枚持っていたとしても、あるいは手形がどれほど美しく飾られていようとも、それは何の役にもたちません。口座の所有者本人の署名が入った手形でなければ意味がないのです。

約束に基づいて祈ることを勧めるもう一つの理由があります。それは神様のみ言葉には力があるということです。

なぜキリストは、十字架上で三度も詩編のみ言葉を引用して祈ったのでしょうか？ 荒野で誘惑を受けたとき、キリストは聖書のみ言葉で自らを守り、サタンを打ち負かすことが出来たのではなかったのでしょうか？（マタイ 4:4、7、20）キリストは次のようにおっしゃいました。「人は、神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」のだと。

創造主なるキリストは神様のみ言葉に力があることをご存知でした。

「神のみ言葉に書かれている一つひとつの命令や約束は力であり、神の命そのものであり、それによって、神の命令は成就し、約束は果たされてきたのです。（『キリストの実物教訓』 38 ページ、英文）なんと素晴らしい言葉でしょうか。一つひとつの約束の中には、神様の力と命が含まれているのです。約束に基づいて祈るとき、私たちは神様のみ言葉を祈りに使わせていただいているのです。神様のみ言葉についてはこのように書かれています。「わたしの口から出るわたしの言葉も、むなしくは、わたしのもとに戻らない。」（イザヤ 55:11）

私は聖霊を求めて祈るときには、必ず約束に基づいて祈るように心がけています。約束に基づいて聖霊を求めて祈るときに、次のみ言葉を根拠とするならば、聖霊を受けたことがわかるのです。

「わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既になえられていることも分かります。」（ヨハネ第一 5:15）約束なしで祈るならば、祈りが答えられたらいいな、と願うだけで終わってしまいます。約束に基づいて時間をかけて祈り、祝福された一日を体験するほうが、一日の終わりに失敗したことを数え上げて文句を言うよりもずっと良いに決まっています。

私は一通のメールを受け取りました。大きな喜びにあふれたそのメールには、次のように書かれていました。

「一日中神の導きを自分の言葉で祈り求めるのと、聖書の約束と共に祈ることに、これほどの違いがあるなんて考えたこともありませんでした。今では私にとって約束がとても重要なものになっています。もちろん約束を信じてはいましたが、その約束を日々神様に要求することはしていませんでした。今ではキリストとの生活はより親密になり、大きな喜びにあふれ、確信が増し、生活も穏やかなものになってきます。このことについて神様に感謝しているのです。」

このような訳で、私は約束に基づいて聖霊を求める祈りの模範をシェアしたいと思ったのです。祈りは自然と短時間になるかもしれませんが。神様のみ言葉と共に、自分の言葉で祈ることを学ぶことはとても大切なことですが、祈った後で間違いなく聖霊を受けたと確信できる約束に基づいて、私たちの信仰は強められるべきなのです。祈り求めていることを信じるときに、私たちは実際に聖霊を受けるのです。キリストご自身も、聖霊を通して私たちのうちにお住みになりたいと願っておられます。(ヨハネ第一 3:24、ヨハネ 14:23 を参照)

エレン・G・ホワイトは次のように言っています。

「聖霊の影響とは、その魂の内にあるイエスの命そのものである。」

ペテロやパウロ、ほかの人々を変えた力は私たちにも同じように与えられているのです。神様は「その豊かな栄光に従い、その霊により、力をもってあなたがたの内なる人を強め」る (エフェソ 3:16) ために働いてくださっているのです。

聖霊に満たされることが、喜びと力と愛と、罪への勝利に満ちた信仰生活の鍵です。なぜなら、「主の霊のおられるところに自由がある」(コリント第二 3:17 下旬)からです。

私が受け取ったメッセージには、次のように書かれていました。

「多くの教会員が毎日二人一組になって祈りのリクエストに沿って祈っていました。5ヶ月間、私は友人の女性と一緒に祈りしてきたのです。個人的な問題について進んで祈り合おうと話したわけではありませんでしたが、やがてお互いの家庭のこと、人間関係、結婚のこと、教会における霊的なことまで、何一つ障壁となることなく自然に、静かに、祈り合えるように導かれていったのです。私たちは驚きのうちに、これこそが神様のプロセスであることを知り、神様をより近くに感じられるようになって、人生を楽に生きられるようになったのです。」

人は霊的な状態のままにい続けることができるか？

人は霊的な状態のままにい続けることができるでしょうか？ もちろんできます！ 不信仰な態度が拡大しないように、霊の呼吸を継続していれば。罪を告白すること（息を吐く）で神様の愛と赦しを受け、聖霊に満たされるために新しい祈りをする（息を吸う）ならば。

これはちょうど親子の関係に似ています。子どもがあなたに逆らったとしても、あなたの子どもであることに変わりありません。しかしあるときには関係に亀裂が生じたように感じることもあるでしょう。子どもは親の目を見て話すことができないかもしれません。しかしこのような亀裂は「告白する」ことで埋まっていくのです。

長い人生の歩みの中では、何もしなければ再び肉の状態に戻ってしまうこともあります。聖書は「一度救われたなら、永遠に救われる」とは教えていません。私たちの罪深い性質は相変わらず存在しているのです。

「使徒であろうと、預言者であろうと、一人として罪がないなどと言い切ることはできない。」(『患難から栄光へ』 561 ページ、英文)

しかし、聖霊とキリストが共におられる人生を私たちが経験することによって、罪の力は破壊され、幸福で力強いクリスチャン人生をおくることができます。私たちの義は、「わたしたちにとって神の知恵となり、義と聖と贖いとなられた」（コリント第一 1:30）キリストだけなのです。この重要なテーマについては後の章でもう少し詳しく扱います。

しばらくの間、霊の促しを拒み、霊的な呼吸をやめてしまったことで、肉的な状態に戻ってしまったときには、愛に満ちあふれた救い主が私たちを待っておられることを思い出してください。

私たちを新たに造り変えてくださり、神様の恵みによって永遠に続く霊的な人生に導いていただける道を知っていることがとても重要なのです。

誰一人、肉的な状態に留まり続ける必要などないのですから。

次の言葉を各々が忘れないでいたいものです。ランディ・マックスウェルは次のように言いました。

「霊的に死にかけた神の教会は、何の努力もしないまま甦ることができるかとも思っているのでしょうか？」（『If My People Pray』 158 ページ、英文）

聖霊によって日々新たにさせていただくために、 約束に基づいて祈る「祈りの見本」

天の父なる神様、私は救い主なるキリストの御名によってあなたのみ前に参ります。あなたは「心をわたしにゆだねよ」（箴言 23:26）とおっしゃいました。私は今、自分のすべてを、自分が持っているものも、存在そのものも、すべてをあなたにお委ねしたいと思います。（注）

あなたは御心によって、この祈りにすでに答えてくださっていることを感謝します。なぜなら、私たちが御心にならなかって祈るときには、「神に願ったことは既にならされていることも分かります。」（ヨハネ第一 5:15）と聖書に約束されているからです。また「わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。」（ヨハネ 6:37）とも約束されています。

キリストは言われました。「このように、あなたがたは悪い者でありながらも、自分の子どもには良い物を与えることを知っている。まして天の父は求める者に聖霊を与えてくださる。」（ルカ 11:13）と。

あなたを信じる者（ヨハネ 7:38~39）、あなたに従う者（使徒言行録 5:32）、聖霊によって自らを新しくする者（エフェソ 5:18）、また御霊のうちに歩く者には（ガラテヤ 5:16）聖霊をお与えくださると約束してくださいました。これこそが私の願いです。

私の内にこのことを成し遂げてください。この約束のゆえに、私は天の父なる神様に今日、聖霊を私に与えてくださるよう心から求めます。あなたの御心にならなう願うゆえに、今聖霊をお与えくださることに心から感謝いたします。（ヨハネ第一 5:15）

また神様の愛も同時に受け取ることができたことを感謝いたします。聖書は次のように言っているからです。

「聖霊によって、神様の愛が私たちの心に注ぎ込まれている」（ローマ 5:5、エフェソ 3:17）。

詩編も語っています。

「主よ、わたしの力よ、わたしはあなたを慕う。」（詩編 18:2）他の人々を、あなたの愛をもって愛することができることを感謝いたします。

聖霊の力によって、私の内にある罪の力が砕かれたことを感謝いたします。（ローマ 8:13、ガラテヤ 5:16）罪とこの世の悪から私を守り、救い出してください。悪天使たちの罠と、誘惑からお救いください。必要ときには、強制的にでも、私の古い邪悪な性質から救い出してください。（ヨハネ第一 5:15）
今日も、言葉と行いを通してあなたの証人となることができるように助けてください。（使徒言行録 1:8）
あなたを心から賛美し、私の祈りを聞き入れてくださることを感謝いたします。 アーメン。

（注）「キリストの共労者となる者だけが、私の存在、私の持っているすべてのものはあなたのものですよと云う者だけが、神の息子、娘と認められるでしょう。」
（『各時代の希望』 523 ページ、英文）

この世の人生を謳歌することも、永遠の生命も、多くの魂が救われることも、キリストの偉大な犠牲に感謝することも、十分努力に値することです。重要なのは、毎朝の家庭礼拝で主にお会いすることです。そこで私たちは力を受けることができるからです。

キリストの弟子ヨハネについて次のように記されています。

「日ごとに、彼の心はキリストに注ぎ出されていました。主に対する愛によって自分自身のことなど見えなくなるほどに。

彼の反抗的で野心的な気性は、回心させるキリストの力によって完全に変えられました。聖霊の影響力によって新たに生まれ変わり、彼の心は全く新しく造り変えられたのです。

キリストの愛の力は彼の性格をすっかり変えてしまいました。これこそが、キリストと一つになった証拠なのです。キリストが心の内側であなたとひとつとなる時に、あらゆる性質が作り変えられていくのです。」（『キリストへの道』 73 ページ、英文）

「わたしの目の覆いを払ってください。あなたの律法の驚くべき力にわたしは目を注ぎます。」（詩編 119:18）

「仰せを受けてわたしは喜びます。多くの戦利品を得たかのように。」（詩編 119:162）

第 6 章

これから私たちが待ち受けている経験とは？

個人的な経験、そして教会・教区・支部が経験したことについて

一人の兄弟の経験

「二年間、自分の生活の中に聖霊が満ちあふれるように毎日お祈りしています。私の願いは、一日も欠かさず、キリストがずっと私の中に住んでくださることです。この祈りを始めてからというもの、神様と共にある日々は信じられないものになっています。

キリストに私の内に住んでくださるように、御心を行ってくださるように、聖霊によって日々新しくして下さるようにと願うようになって以来、ガラテヤ 5 章に書かれている御霊の実が、生活の中でよりはっきりと理解できるようになってきました。聖書を読んでいても、ほかの人と分かち合っている、これまで以上の喜びを感じ、他の人々のためにもっと祈りたいと思うようになりました。

それ以上に私のライフスタイルが劇的に変わりました。日々神を求め、聖霊を求めているうちに、このようなことがすべて確信として与えられるようになったのです。日々聖霊に満たされるように、まずは 6 週間祈ってみて、あなた自身がどうなるかを見届けてください。」

セルビアでの 40 日の祈り

「2010 年 9 月、『40 日一再臨に備える祈りと瞑想』を翻訳し、出版し、私たちの支部の教会員全員が読むことができるようになりました。それから週ごとに、あるいは日ごとに教会や家庭で 40 日間にわたって祈祷会を開き、聖霊が新たにあふれるようにと断食の祈りがささげられました。

この祈りの間中、これまで教会になかった新しい雰囲気の一つひとつ生まれ始めたのです。これまで消極的だった教会員が、積極的に他の人々に奉仕するようになりました。様々なことでお互いに争っていた人々が（最終的には口をきかないまでになっていたのですが）、仲直りをした後で、コミュニティーにどのように働きかけられるかを一緒に計画し始めたのです。

そして 2010 年 10 月、年次理事会の席で『リバイバルと改革の手始め』が紹介されたのです。私たちは喜んで受け入れ、すでに私たちの支部で神様が始められたことの続きとしてとらえたのです。

この祈祷会の結果として、教団職員の中にさらに親しい交わりや一致、より深い相互理解が生まれたのです。」

スイス・チューリッヒでの 40 日の祈り

「牧師も私も、各々が全く同じ本をプレゼントされ、その内容に二人でワクワクしてしまいました。『40 日一再臨に備える祈りと瞑想(デニス・スミス著)』という本です。この本は読まないではいけない本です！ この本のおかげで私の人生はすっかり変わってしまいました。

教会員わずか 100 名足らずの私たちの教会では、リバイバルと祈りが不可欠でしたので、2011 年秋に 40 日の祈りを開催することにしました。この本には、詳細に渡ってこのことに関する情報が書かれているばかりではなく、40 以上のテーマに沿った礼拝説教も含まれていました。テーマは御霊に満たされること、祈り、説教、イエスの生涯、霊的交わりなど多岐にわたっていました。

大きな不安と期待を胸に、2011 年 10 月 1 日に 40 日の祈りを始めたのです。嬉しいことに、ほとんどの教会員が参加してくれました。祈りのパートナーと毎日会ってお祈りしたり、メールでメッセージ交換したり、電話で毎日お祈りしたりしました。礼拝とお祈りのために、毎朝 6 時に会う約束をしたグループもありました。

私たちにとってこの 40 日間は忘れられない経験となりました。神様は多くの祈りに答えてくださいましたが、特別に同時に開かれた「聖書の預言に関する連続セミナー」と結びつけてくださいました。この講義は本当に祝福でした。大勢の方がいらしてくださり、次回の預言セミナーには 20 名もの人々が登録してくださいました。

*2013 年 3 月には、50 名から 60 名の方が来られました。これはチューリッヒでは過去 20 年間で最高の記録です。

神様の霊は、今でも私たちの教会の中で変革の働きを続けておられます。小さな集まりがやがて大きくなり、教会員が積極的に聖書研究を施し、興味を持つ人々を連れてくるのを見るのはとても大きな喜びです。今参加している人々も、引き続き神様の霊によって働きたいと強く願っています。私たちは心から神様に感謝し、栄光を帰したいと願っています。」

(ベトリス・イージャー／チューリッヒ・ウォルフスウィンケル教会所属)

ドイツ・ケルンでの 40 日の祈りと伝道

ジョー・ローツェ牧師はドイツ系ブラジル人で、ブラジルの教会や病院で 38 年間働き、南アメリカ支部でも奉仕し、2012 年 3 月に引退しました。牧師夫妻は「ヒズハンズ宣教師」としてケルンに赴任し、ポルトガル語やスペイン語教会で働いています。

「赴任してすぐに、教会員を励まそうと小さなケアグループにゲストを招くことから始めました。ブラジルでの経験を生かして、ケルンでも 40 日の祈りを始めたのです。テキストはポルトガル語に翻訳されていました。

ポルトガル人、スペイン人、ドイツ人が集う教会で、喜びをもって 40 日の祈りを始めました。毎日、100 名の仲間とその友人たちのために祈りました。彼らの名前を教会のホワイトボードに書き出しました。

祈り始めてから 30 日から 35 日目の間に、お祈りしていることを友人たちにも伝え、同時に安息日の特別礼拝に招待しました。120 名の人々がこの特別礼拝に来てくださいました。伝道部長のクリスチャン・バドレック先生が説教をしてくださいました。ホワイトボードに書き出された自分の名前を見つけて、涙を流して喜んでくださった方々もいました。

それから、ブラジルの伝道師、アントニオ・ゴンカルベス先生が 15 日間の伝道講演会をしてください、通訳付きで每晚 90 分話してくださいました。「あなたは聖書に驚かされる」というのがこの講演会の題でした。ダニエル書や黙示録だけでなく、再臨についても扱った内容でした。講義と讃美歌はポルトガル語からドイツ語に翻訳されました。每晚小さなコワイヤーの歌と素晴らしい音楽が用意されました。そ

して毎回献身への招きで締めくくられました。とてもいい反響を得て嬉しく思います。教会員は、特に40日の祈りに参加した人々は熱心に祈りました。

私たちの礼拝堂は80名で満席ですが、毎回100名以上の参加がありました。週末、礼拝堂は満員で、平日でも60名くらいが参加してくださいました。連続で出席したのは32名でした。この結果、8名の方々がバプテスマを受け、14名がバプテスマクラスに参加しました。年末までにはさらに13名のバプテスマが予定されています。

多くの驚くべき経験が与えられました。まずは通訳者を見つけることに苦労していましたが、一人のカトリックの教師が通訳に名乗り出てくれました。しかし、聖書に関する通訳の経験がほとんどなかったのです。そこで、プロテスタントの通訳者が与えられるようにお祈りしました。間もなく地域のレストランで一人の女性と出会い、彼女はペンテコステ派の教会で、ポルトガル語からドイツ語に通訳をすることに喜びを感じていると語ってくれました。彼女がこの講演会で通訳の働きをし、最終的に彼女自身も洗礼を受けたのです。

通訳者マリアは、友人のエリザベスを講演会に招いてもいいかと尋ねてきました。彼女はケルンにある13名の教会員からなるコロンビア人教会の指導者でした。彼女は自分の教会の教会員もつれてきました。そのうちの2名が洗礼を受け、エリザベスと家族は今、聖書研究を続けています。

ホープチャンネルに関連した経験もありました。

たまたまホープチャンネルを観た女性が、安息日の真理に感銘を受けたのです。ご主人にも観るように勧め、彼もそのメッセージを聴いて喜びました。ある日、母親の家に行こうとした時に、いつもとは違う道を通るように促されたのです。その道中、セブンスデー・アドベンチスト教会の看板を見つけ、ホープチャンネルがアドベンチスト教会の放送であることを知ったのです。

ある安息日、彼女はアドベンチスト教会の礼拝に出席しました。次にご主人と母親も誘いました。そして三人ともバプテスマを受けたのです。

ロシア系ドイツ人の姉妹は、40日の祈りに参加したときに、近所にいるロシア語を話す人々のためにお祈りを始めました。彼らのために祈っていることを伝えると、隣人はとても驚いて、「ずっと聖書の安息日を守っている教会を探していたのだ」と言いました。二人の隣人が伝道講演会に出席し、二人ともバプテスマを受けました。

ジャンヌという女性は、ブラジルのバプテスト教会の教会員でしたが、ケルンでポルトガル語の教会を探していました。彼女はアドベンチスト教会を見つけて早速連絡をとり、聖書研究を受け、バプテスマを受けました。

そのあと、ブラジルのおじさんに連絡をとって、自分がアドベンチストになったことを伝えました。それは彼女の母親や兄弟たち、かつて所属していたブラジルのバプテスト教会の人々にとって大きな衝撃を与えました。

ブラジルの家族は、後日アドベンチスト教会を訪問すると、彼らも安息日の真理を知ることになりました。それをきっかけにして、母親と二人の姉妹、そして他の5人の親戚の家族がブラジルでバプテスマを受けました。現在はアルゼンチンに住むもう一人の姉妹のためにお祈りをしています。みんなで一緒に神の御国に行くことが彼女の希望なのです。

神様の導きのうちに、私たちは他にも多くの経験をしました。

第一回のバプテスマ式ではイタリア人、ドイツ人、ペルー人、ブラジル人、ウクライナ人、ベネズエラ人、コロンビア人、ロシア人の8名が洗礼を受けました。

秋には、「40日の祈り」に続いて伝道講演会を開き、ブラジル出身で現在はアメリカ在住のジミ・カルド

ー牧師ご夫妻が講師をしてくださいました。わずか 1 週間の講演会でしたが最終日には 4 名のバプテスマがありました。以前から聖書研究をしていた方々です。3 名はドイツ人、1 名はイタリア人でした。バプテスマは 400 人が収容でき、立派なバプテスマ槽を持つケルンの教会で行いました。これほどの驚くべきみ業を行ってくださった神様に感謝します。神様はもっと大きな経験をさせてくださると確信しています。どうぞ私たちのために祈ってください。」（ジョー・ローツェ／ドイツ・ケルン）

力強いとりなし

「最初は『40 日』の祈りの本を最後まで読んだだけでした。初めのページからとても感激しました。誰かのために祈るだけでなく、愛をもって具体的にケアするべきである、と。これはとりなしの働きだとピンとききました。残念なことに、私はこれまでとりなしについてこのような形で学んだことがありませんでした。生活において信仰を実践しよう！ とりなしは、祈ってもらう人々だけでなく、祈る自分にも重要なことだと確信しました。また、とりなしを通して教会員同士の交わりも間違いなく強まるだろうと確信しました。この本の最後に書かれているような強い結びつきが生まれたらいいなあ、と思ったのです。そんな交わりをずっと求めて来たので、正直、涙なくしては読めませんでした。

「内住されるキリスト」に関する本が私たちを育み、自分の努力で成し遂げたという誘惑から自由になれると確信したのです。「内住されるキリスト」について書かれた本はこれまで何冊か読みましたが、この本が最も助けになったと思います。

この本のおかげで祈りの生活が強められ、教会員同士の交わりは深まり、とりなしによって教会が生き生きしてくるのを感じます。この本は自分自身に、教会に、この世に対する希望を与えてくれました。この本に出会わせてくださった神様に感謝します。これから『40 日』のテキストを勉強して祈り、神様が示してくださる場所で活かしていきたいと思います。」

数週間後

この姉妹から別のメールが届きました。

「ご存知のように、この本をまず最後まで読みました。祈りのパートナーと礼拝について学び始めていましたが、当初考えていたよりも大きな価値があることがわかりました。自力では答えが出なかったところに、答えが示されました。熱心に積極的に参加してくれる祈りのパートナーを与えてくださった神様に感謝します。」（H・K）

もう確信がなくなって

「『個人的リバイバル』を読んで驚嘆しました。…アドベンチストの家庭に生まれ、ずっと正しい道を歩んできたつもりでした。十人のおとめの章、特にローマ 8:9 下句、「キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。」を読んで、とてもショックを受けました。果たして自分は聖霊を持っているのか、聖霊は自分の内で働いてくださっているのか、自信がなくなってしまいました。なぜなら、私の人生において、結果として与えられるはずの「実」が全く欠如していたからです。

安息日の午後に本を読み終えた私は、とめどもない深い悲しみに襲われました。最終章に書かれていた「祈りの見本」を口に出して読み上げると、聖霊をどうしても受けたいという大きな願いが私の内に起こったのです。聖霊に私の心を造り変えていただき、神様の御心のままに、私をつくり変えていただきたいという願いが。」（A・P）

神様を知る

「しばらく前にリバイバルに関する記事を読みました。このテーマについて 3 年間も考え続けていたところでした。そして『個人的リバイバル』を読み始めました。アーメン！ としか言いようがありません。自分が思っていた考えがこの本に書かれていたので嬉しくなっていました。

自分の教会は、神様の答えからたった 1 インチずれている、そんな気がしてなりません。何かとても大切なものを見失っている、そういう印象を拭き切れないのです。何かにつけて「何が正しいか」とか、「どのように生きるべきか」とか、「預言はどれだけ大切か」に注目しがちなのです。これが間違いだとは言っ

ていません。しかし神様がなぜ、それらを私たちに与えてくださったかを見落としているのです。真理は、神様と完全に交わるためにあるのではないのでしょうか。このような分野は、真に神様を知る手助けをするためにあるのではないのでしょうか。預言は神様の偉大さと全能の力を知り、神様が御手の内にこの世界を導いておられることを理解し、同時に神様が私たちの生活を導き、形作っていることを知るためにあるのではないのでしょうか。

永遠の命とは何でしょうか？「永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。」（ヨハネ 17:3）

たとえ話の中で、花婿がおろかな 5 人のおとめに対して一言、「私はあなたを知らない」と言いました。信仰の目的とは、ただ神様を知ること、神様と深く交わることです。そうするならば、当時の会堂がそうであったように、神様は私たちを満たすことができになるのです。（歴代誌下 5:13～14）神様が私たちの心の中を通られるときに、私たちは完全に満たされ、本当に生きることができるのです。『もはや生きているのは私たちではなく、キリストが私たちの内に生きてくださるのです。』

とりなしに対する驚くべき答え

「デニス・スミスが著した 2 冊目の『40 日』の本は、私にとって限りない祝福となりました。私が祈っていた人々は 180 度変えられる経験をしました。

40 日の祈りの間に、友人の一人と深い霊的な話をするがありました。彼の話によると、奥様がここ数週間のうちに今までとはまったく違う方向に歩み始めたのだと言います。彼女は日々祈る必要を感じ、神様のみ言葉についてより深く考えるようになり、これまで価値があると思っていたものや頼っていたものを手放すことができるようになったのです。

私は勇気をもって、彼に『40 日』の本を紹介し、私が祈っている 5 つのうちの一つが彼の家庭のためであることを告げました。するととても肯定的な驚きをもって反応してくれたのです。

「では、このすべての出来事の原因は、君にあるってわけだ！」

一人の少女が自分の人生を 100% 神様に捧げる決心をしました。子供のころから神様の存在は信じていましたが、彼女の生活の中に神様はいませんでした。信仰には全く興味がなく、世的な生活にどっぷりと浸かっていたのです。

今では全くの別人です。彼女の過去を知っている人が今の彼女を目にしたらびっくりするでしょう！ 彼女は今、私と聖書研究をし、教会で『40 日』のプログラムに参加し、他の人々に対して真剣に信仰生活を見直すようにと励ましているのです。

私がお祈りしていた別の少女は、一般の 1 週間の訓練コースに参加するため、他の参加者と一緒に宿泊することになりました。見ず知らずの人々と一緒に生活することにずっと不安を感じていたため、彼女が出かける前に、ずっと彼女のために祈り続けていることを話しました。

どんな状況でも神様が彼女に平安を与えてくださり、この経験が祈りに対する答えとなるようにと祈りました。

訓練の途中で彼女から連絡があり、神様が信じられないことをしてくださったと興奮して話してくれました。完全な平安が与えられただけでなく、ディスコやお酒などが絡む夜の娯楽に自分は参加しない、と宣言する勇気を与えてくださったというのです。

神様が偉大な方法で祈りに答えてくださるのを見聞きしていたので、『40 日』のプログラムが終わった後も、私は彼らのためのお祈りを継続しています。」（A・M 文章一部省略）

神様はとりなしを通して、どのように働かれるのか？

「親しくしていた若者と 5 年間ほど音信不通になってしまいました。

彼は私のメッセージを無視しているようで、ここ 3 年くらいは教会にも行っていないようでした。（彼は幼い頃から教会で育った人です。）そしてクリスチャンではない女性とお付き合いをしていました。住まい

は 600 キロも離れていましたし、何の返事ももらえなかったので、彼と連絡を取ることは無理だろうとあきらめていましたが、彼の名前を祈りのリストにずっと残したままにして、彼が「生きている証」をひたすら祈り求めたのです。

しばらくして、彼の兄弟がバプテスマを受けることを知りました。それはすぐ近くの教会で行われ、40 日の祈りの開催期間中でした(本来は別の日に予定されていましたが)。私は出席することにしました。そしてそこでついに彼に再会したのです。彼と真剣に話をしました。信仰を取り戻したい、という願いが次第に強まってきたけれども、現在の生活を変えることができない、ということでした。すでに 20 日間彼のために必死に祈ってきましたし、それ以前からずっと彼の名前は祈りのリストにあったことを伝えました。まさにこの 20 日間、彼にとって神様からの強い促しを感じていた期間と重なったので、彼は言葉を失ってしまいました。

霊的なバプテスマ式を観て、彼はとても感動し、牧師が会衆に献身を促すと、彼の心の内で葛藤が起こっているのが見て分かりました。

ついに彼はひざまずいて泣き始めたのです。彼はこの日、神様に再献身しました。再び教会に通い、生活を変える決心もしたと話してくれました。このような週末が訪れることを、彼は予想もしていなかったことでしょう。

数週間後、青年宣教集会で彼と再会した時、彼の信仰は力を帯び、造り変えられていました。親しい友人を悔い改めに導いてくださった神様に感謝します。」(M・H)

ドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク州ルートヴィヒスブルクの教会

「最初は夫婦二人で『40 日』のテキストを読み、個人的な祈りにおいて祝福を受けていました。それから教会で週 2 日の祈祷会を始め、今度は教会員と一緒に読みはじめました。神様の明らかな祝福と導きのもと、40 日の間、数々の奇跡を経験しました。神様は私たちの教会を新しく生まれ変わらせてくださいました。

見ず知らずの人に話しかける勇気もなかった教会員が、突然自分から話しかけるようになりました。共に祈り合うことで、神様は私たちをより親密にしてくださいました。

とりなしの祈りでは、特別な経験をする特権に預かり、40 日の間祈る 5 人の名前も示されました。神様は名前を上げた人々の内に特別なことをしてくださいました。

安息日礼拝には、幾度となく、全く見知らぬ人々が教会に訪れました。彼らの家族を相手に今聖書研究をしています。彼らはインターネットの動画と『各時代の争闘』の本を通して安息日の真理を知り、ちょうど教会を探しているところだったそうです。」(カチャ、クリスチャン・シンドラー兄弟／ルートヴィヒスブルク・アドベンチスト教会所属 文章一部省略)

40 日の経験

「すべては『個人的リバイバル』のセミナーがきっかけでした。

私が生活の中でもっと神様を経験したいと願っていたそのときに、40 日の祈りと礼拝について耳にしたのです。すぐにこれだ！ と即決しました。しかし、本当のところ自分が何に挑戦しようとしているのかを理解してはいませんでした。

親しい祈りのパートナーを見つけること(このプログラムの一部)はそれほど難しくありませんでした。そのあとで 40 日間、毎日一緒に祈る時間を確保することのほうがずっと困難でした。私は看護師なので労働時間が日よってまちまちなのです。そのことまで考えが及びませんでした。しかし神様は私の最初の決心を祝福してくださいました。

毎日祈りの時間を心待ちにするようになり、お互いにテーマについて分かち合い、聖霊を祈り求めました。生活の一部が祈りによって変えられつつあるのを知り、それを自分たちの内に留めておくかわりに、機会があれば証したいと熱望するようになりました。周りの人々にも同じ経験をしてもらいたいと働きかけ

ることが重要に思えたのです。

効果はすぐに表れました。私たちの熱心さが何人かの教会員に伝わったのです。すぐに新しい礼拝のペアが集まってきました。毎週それぞれが経験したことを分かち合うことが最高の喜びになり、この「感染」は何名かの若者たちにも波及しました。

40日はあっという間に終わってしまいました。しかし、このまま終わらせたくなかったのです。そこでエレン・G・ホワイトの『マラナタ 主は来られる』という本を用いて礼拝することにしました。神様は長く私たちを忍耐させるようなことはなさいませんでした。この40日の間に神様は多くの祈りの答えをくださったのです。

祈っていた一人の方は、長期欠席者だったのですが、ある日教会に連絡をしてきました。私たちの歓喜の声が聞こえるでしょうか！

周りの人々がとても大切な存在に思えるようになり、多くの人々と神様の愛を分かち合いたいという願いがさらに強くなりました。人生は一変しました。多くの教会員がお互いをもっと知るようになり、相互理解を深めるようになりました。互いの生活に関わるようになり、互いを援助し合うようになりました。「交わり」の意味がこれまでとは全く違うものになったのです。

40日の祈りとデニス・スミス牧師による礼拝は、私にとって大きな助けとなりました。祈りのパートナーを見つけて、共に神様を経験することは想像以上に簡単なことです。周りの人々は、この祈りにとても感謝してくださいます。」

(ヒルデガード・ウェルカー／クレイルスハイム・アドベンチスト教会所属 外科看護師 文章一部省略)

私たちの模範であられるキリスト

キリストはすべてにおいて私たちの最も偉大な模範です。ルカ 3:21～22には次のように書かれています。

「民衆が皆洗礼を受け、イエスも洗礼を受けて祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエスの上に降って来た。」

エレン・G・ホワイトは、このことについて次のように述べています。

「天父への祈りに答えて、天が開き、聖霊が鳩のかたちとなって彼の上に留まった。」(『Ye Shall receive Power』 14 ページ、英文)

キリストは伝道の働きを行う前に、驚くべきことを日課にしていました。

「朝ごとにキリストは天の父なる神様と交われ、日ごとに新たな聖霊のバプテスマをお受けになった。」(『Signs of the Times』 Nov. 21, 1895、英文)

キリストが日ごとに新たな聖霊のバプテスマをお受けになられていたのであれば、私たちはいったいどれほど求めるべきでしょうか！

終わりに

神様の栄光の豊かさのゆえに、聖霊を通して人生のどんな状況においても素晴らしい指導者と力が備えられてきました。

こうして私たちの品性が造り変えられ、神様の働きをするにあたって価値のある道具となることのできるのです。私たちが日ごとに自分を献げて聖霊のバプテスマを受けるとき、私たちの生活に大きな転機が訪れます。

神様は、人類の歴史におけるもっとも重要な時代のために私たちを備えさせたいと願っておられます。キリストの再臨に個人的に備え、聖霊の力によって、福音の働きを完遂するために共に働きたいと願っておられるのです。困難に思える時にも、神様は勝利をもって私たちを導きたいと願っておられるので

す。

日ごとに自分を明け渡し、聖霊のバプテスマを受けることによってあなたを造り変える『個人的リバイバルの働き』を行ってくださる神様に、完全におまかせしてください。

最後に一つの聖書のみ言葉と、リバイバルを求める祈りで締めくりたいと思います。

「もし…わたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす。」（歴代誌下 7:14）

共に祈りましょう

天の父なる神様、私たちに謙遜をお与えください。（ミカ 6:8）

私の心の中に、祈ることへの渴望と、み顔を仰ぎたいという情熱を置いてください。悪の道から離れることを願い、実際にそうなることができるように助けてください。

私たちを必要なもので満たし、あなたの約束に基づいて、あなたの答えを、確信をもって待つことができるようにしてください。

私たちの罪を赦し、なまぬるさと背信から救い出してください。日ごとにキリストに自分のすべてを明け渡し、信仰によって聖霊を受け取ることができるように助けてください。 アーメン。

「リバイバルは、祈りの答えによってのみ起こり得る。」
（セレクトッド・メッセージ 第一巻 121 ページ、英文）

「ペンテコステの日のような聖霊のバプテスマは、結果として、真の宗教へのリバイバルと多くの素晴らしい働きを生み出す。」
（セレクトッド・メッセージ 第二巻 57 ページ、英文）

777の世界的な祈りの輪に参加しましょう！

777の祈りとはどのような祈りでしょうか？ それは世界中のアドベンチストによって祈られている祈りのひとつです。信仰によって一つにつながれた神の民が、7日間、毎日、朝7時と夜7時に、私たちの家庭、教会、指導者、そして地域の上に、聖霊の力強い臨在を求めて祈るムーブメントです。

国々によってそれぞれ時差があるために、毎日「7時」にささげられる祈りはまるで鎖のようにつながれていき、世界中のアドベンチストによって、24時間絶え間なく聖霊を求める祈りが献げられるのです！素晴らしい祈りの輪にあなたも参加してみたいと思いませんか？

「信者の献げる熱心な祈りの鎖が、世界を大きく包み、聖霊の働きはますます推進されていくのです。」
（Review and Herald, January 3, 1907、英文）